PENTAX®

使用説明書

カメラの正しい操作のため、ご使用前に必ずこの使用説明書をご覧ください。

PENTAX® MZ-L QUARTZ DATE 使用説明書

はじめに

このたびは、ペンタックスカメラ MZ-L をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本製品の機能を充分活用していただくために、ご使用になる前に本書をよくお読みください。また本書をお読みになった後は必ず保管してください。使用方法がわからなくなったり、機能についてもっと詳しく知りたいときにお役に立ちます。
この説明書で使用している作例写真は、必ずしもこのカメラで撮影したものではありません。

カメラを安全にお使いいただくために

この製品の安全性については充分注意を払っておりますが、下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

このマークの内容を守らなかった場合、使用者が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

注意 このマークの内容を守らなかった場合、使用者が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。

禁止事項を表すマークです。

注意を促すためのマークです。

警告

- カメラを分解しないでください。カメラ内部に高電圧部があり、感電の危険があります。
- 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手をふれないでください。感電の危険があります。
- ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようにご注意ください。
- 望遠レンズを付けた状態で、長時間太陽を見ないでください。目を痛めることがあります。特に、レンズ単体では、失明の原因になりますのでご注意ください。
- 電池は幼児の手の届かない所に保管してください。万一、電池を飲みこんだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

注意

- 電池をショートさせたり、火の中に入れないでください。また、分解や充電をしないでください。破裂･発火の恐れがあります。
- 万一、カメラ内の電池が発熱･発煙を起こしたときは、速やかに電池を取り出してください。その際は、やけどに充分ご注意ください。

取り扱い上の注意

◎ 汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。

◎ 高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでカメラを車内に放置しないでください。

◎ 防虫剤や有害薬品のある場所では保管しないでください。また高温多湿の場所での保管はカビの原因となりますので、乾燥した風通しのよい場所に、カメラケースから出して保管してください。

◎ このカメラは防水カメラではありませんので、雨水などが直接かかるところでは使用できません。

◎ 強い振動・ショック・圧力などを加えないでください。オートバイ・車・船などの振動は、クッションなどを入れて保護してください。

◎ カメラの使用温度範囲は-10°C〜50°Cです。

◎ 高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。

◎ 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることもありますが、これは液晶の性質によるもので、故障ではありません。

◎ レンズ、ファインダー窓のホコリはブロワーで吹き飛ばし、きれいなレンズブラシで取り去ってください。

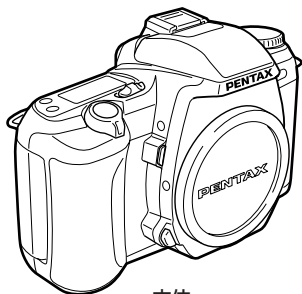
◎ マクロレンズや望遠レンズを使用したときは、ファインダーの上部がミラー切れによって暗くなることがありますが、撮影した写真には影響ありません。

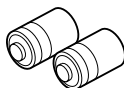
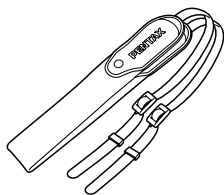
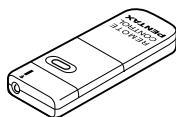
◎ 高性能を保つため、1〜2年ごとに定期点検にお出しいただくことをお勧めします。

◎ 長期間使用しなかったときや、大切な撮影(結婚式、旅行など)の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能しているかを確認してください。

◎ 急激な温度変化を与えると、カメラの内外に水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。

◎ ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメラの中に入らないようにご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、よく拭いて乾かしてください。

主な付属品の確認

本体

ファインダーキャップ

電池

ストラップ

リモコン

・使用説明書（本書）

・保証書

・ペンタックスファンクションカード

目次

各部の名称

内蔵ストロボ
電源スイッチ
セルフタイマーランプ
リモコン受光部
シャッターボタン
レリーズソケット
吊り金具
側面ボタン
セレクトレバー
電子プレビュー
ボタン
AFカプラー
マウント指標
フォーカスモードレバー
ミラー
レンズ取り外しボタン
レンズ情報接点

ホットシュー
表示パネル
モードダイヤル
ドライブボタン
ストロボモードボタン
AEロックボタン
AFエリア切り替えレバー
強制発光ボタン
視度調整レバー
SELECT
DATE
ADJUST
AE-L
AF
UP

本書の使いかた

本書の構成について

本書の構成は以下のようになっています。

◆確認事項

「準備しましょう」の前に、使用上の注意事項や付属品の一覧、各部の名称について説明しています。ご使用の前にお読みください。

◆準備しましょう

ご購入後、写真を撮るまでの準備として必要な操作について説明しています。
また、フィルムをセットする操作について説明しています。

◆基本的な操作をマスターする

- **一番簡単に写真を撮る**
- **内蔵ストロボについて**
- **フィルムの巻き戻しと設定について**
- **電池の交換について**

◆機能をフルに活用する

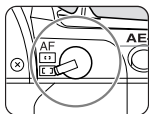
本機の機能を、充分にご活用していただくための各機能の詳細について説明しています。

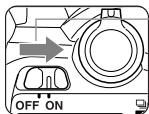
- **いろいろな撮影方法について**…連続撮影、セルフタイマー撮影、リモコン撮影、オートブラケット撮影、多重露出撮影
- **ピクチャーモードの使い方について**…6つのピクチャーモードについて説明しています。
- **露出設定について**…ピクチャーモード、シャッター優先、絞り優先の設定やマニュアルでの設定、バルブ撮影、露出補正の設定、AEロック
- **分割測光について**…分割測光について説明しています。
- **ピント調整について**…フォーカスモードの設定、手動でピントを調整
- **被写界深度について**…被写界深度をファインダーで確認する方法や、ピント位置と絞りの関係について説明しています。

◆ストロボを使用して撮影する

- **内蔵ストロボの使用について**…内蔵ストロボを使用するときの発光モードの設定と、内蔵ストロボについて知っておきたい事項について説明しています。
- **外付けストロボの使用について**…別売りの外付けストロボの使用方法や、AF360FGZを使用してのハイスピードシンクロやワイヤレスモードについて説明しています。

本書の説明について

本書では、カメラやファインダー内の操作のしかたを以下のように説明しています。

丸付きマーク

丸付きで表示されている位置に合わせます。

矢印

ボタンやレバーを矢印方向に押したり回します。

ファインダー内の表示

ファインダーに表示されている状態を絵で説明しています。

＊ ファインダー内の説明では、実際にファインダー内をのぞいた状態に対して、撮影情報を表示するエリアやバーグラフの表示を大きくして説明しています。実際の表示状態とは異なりますので、ご注意ください。

表示パネルの表示状態

参考

操作説明に関連して知っておいて参考になる事項について説明しています。

メモ

操作手順に関連して知っておきたい事項について説明しています。

SET UP
セットアップ

準備しましょう

写真を撮る準備

ご購入後、写真を撮るまでの準備操作について説明しています。

Step1 ストラップを取り付ける

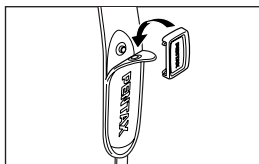
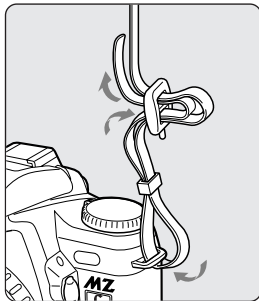
1 ストラップの先端が留め具の内側になるように固定します。

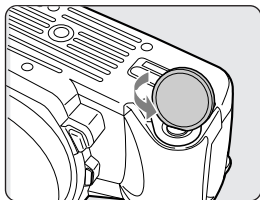
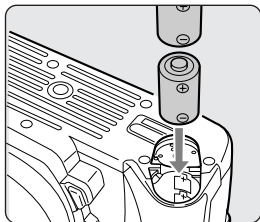
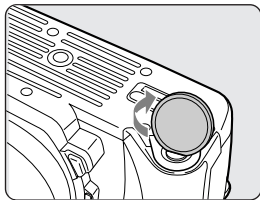
メモ

ストラップの留め具は、フィルムの途中巻戻しや日付や時刻の修正に使用します。留め具の位置はカメラからある程度離して取り付けてください。

2 もう一方のストラップ先端を同様の操作で、取り付けます。

参考 **ストラップのポケット利用方法**

ストラップには、ポケットが付いています。このポケットには、ファインダーキャップ、ホットシューカバーなどの小物を入れておくと便利です。

Step2 電池をセットする

1 本体底部の電池ぶたを、図のようにコインなどで左に回して開けます。

2 付属の「リチウム電池CR2」2本を、図のようにプラス(凸)を上にして入れます。

3 電池ぶたをしっかり押さえ、図のようにコインなどで右に回して閉じます。

メモ 電池について

- 電池は、必ず付属のリチウム電池「CR2」同等品を使用してください。
- 海外旅行や寒冷地での撮影には、予備の電池をご用意ください。
- 電池の交換と使用上の注意については、「電池の交換について」(☞ p.38)を参照してください。

Step3 レンズを取り付ける

1 **カメラとレンズに付属のカバーを外します。**

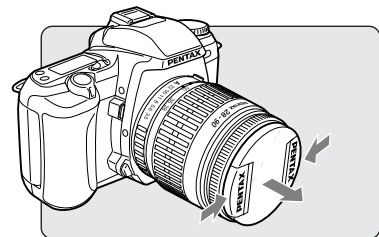
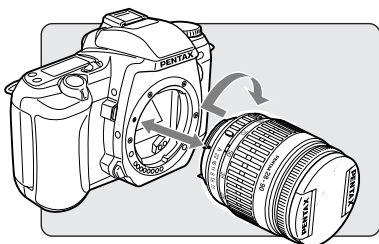
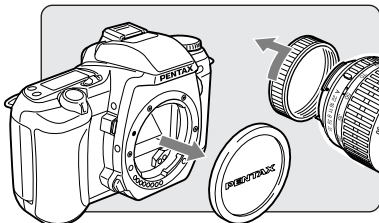
参考

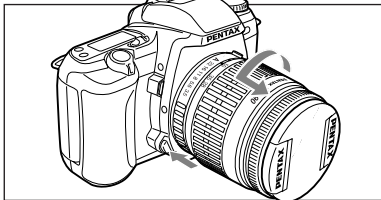
カメラのカバーは、工場出荷時のキズやホコリ防止用のものです。保管用には、別売りの「ボディーマウントキャップK」が用意されています。

2 **カメラとレンズのマウント指標を合わせてレンズをはめ込み、レンズを「カチッ」と音がするまで右に回します。**

メモ

- レンズ取り付け後、レンズを左に回して、確実にロックされていることを確認してください。

3 **レンズキャップを図のようにして取り外します。**

メモ レンズの取り扱いについて

- レンズを取り外すときは、レンズ取り外しボタンを押しながらレンズを左に回します。

- 他社製レンズを本製品に使用することによる事故、故障などにつきましては保証いたしかねます。
- カメラやレンズのマウント面に、ゴミや汚れが付いたり腐食が生じると、電気系のトラブルの原因になる場合があります。汚れたときには、乾いた柔らかい布できれいに拭いてください。

Step4 日付や時刻を写し込む

写真に撮影した日付や時刻を写し込むかどうかを設定します。

1 カメラ背面のDATEボタンを押し、写し込むデータ形式を設定します。

DATEボタンを押すと、以下の順番で表示されます。

＊ 以下の表示は、2001年11月1日午後2時10分を例にしています。
記号は「YY:西暦下2桁」「MM:月」「DD:日」「hh:時」「mm:分」をあらわしています。

[YY MM DD]→[０１　１１　１](国内用)

[DD hh mm]→[１　１４：１０]

[-- -- --]→日付や時刻を写し込まない

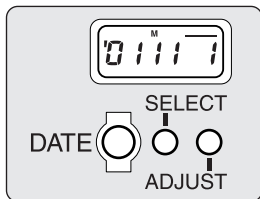
[MM DD YY]→[１１　１　０１](米国用)

[DD MM YY]→[１　１１　０１](欧州用)

メモ 日付や時刻の写し込み

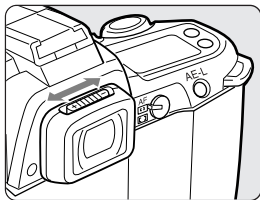
日付や時刻は、画面右下に写し込まれます。この部分に白や黄色のものがあると、写し込まれた文字が見えにくくなります。

参考

- 日付や時刻を修正するときは「日付時刻を修正する」(☞ p.42)を参照してください。
- 日付や時刻の写し込みが薄くなった場合やカメラ側の表示が薄くなったり消えた場合には、電池の交換が必要です(☞ p.40)。
- 多重露出の場合、1枚目のデータが写し込まれます。

Step5 ファインダーの視度を調整する

ファインダーを視力に合わせて調整します。

1 カメラを明るいほうへ向け、視度調整レバーを左右に動かして、ファインダー内のオートフォーカスフレームの線が最も はっきり見える位置に調整します。

視度の調整範囲は、−2〜+1m⁻¹(毎メートル)です。

Step6 フィルムをセットする

このカメラでは、フィルムを入れるだけでフィルム感度が自動的にセットされます。
ISO25～5000までのフィルムが使用できます。

メモ

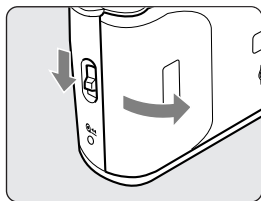
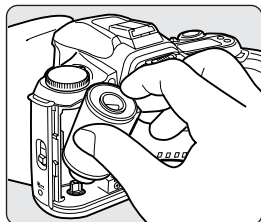
カメラの操作に慣れるまでは、カメラにフィルムを入れないで練習することをお勧めします。

参考

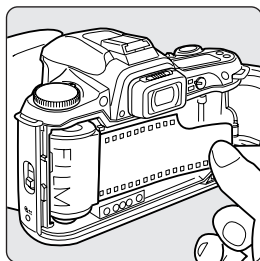
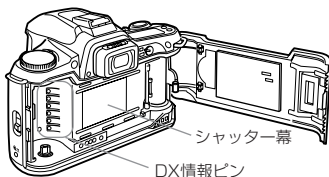
フィルム感度を自動的にセットできるのは、DXフィルムです。DXフィルム以外を使用する場合は、フィルム感度を設定して使用してください(☞ p.37)。

1 裏ぶた開放レバーを下にさげ、裏ぶたを開きます。

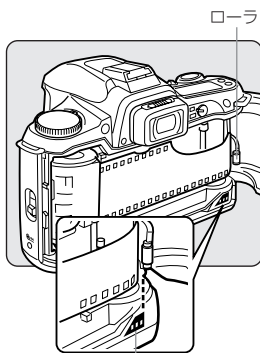
メモ

- ご購入後初めてフィルムを入れるときは、防傷カバーを取り外してください(☞ p.22「防傷カバーを取り外す」)
- フィルムを入れるときは、直射日光が当らないところで行ってください。

2 レンズ部分を左手でしっかり持ち、フィルムの凸部分を下にしてカメラの白い突起にしっかりと差し込みます。次にフィルムの上側を入れます。

3 左手でレンズを持ったまま、右手でフィルムを引き出します。

★重要★

- シャッター幕は、非常に薄い幕でできており精度の高いものです。指やフィルム先端がシャッター幕に触れないように注意してください。
- フィルム室内のDX情報ピンは、フィルム感度などを読み取る接点です。キズやゴミ、汚れを付けないように注意してください。ゴミや汚れは、乾いた柔らかい布できれいに拭いてください。

4 フィルムの先端をカメラのフィルム先端マークの右端に合わせ、必ずローラの下に入れます。

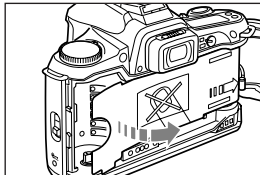
メモ

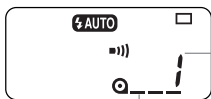
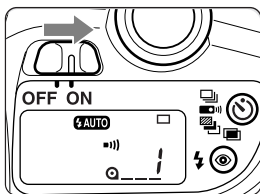
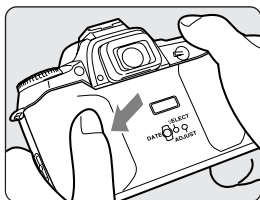
- フィルム先端マークに合わせ、フィルムがまっすぐに入っていることを確認してください。
- フィルムの先端が曲がっているものは、まっすぐに直してください。また、フィルムにたるみがある場合は、フィルムをパトローネに戻してたるみを取ります。

5 裏ぶたを閉めます。

6 電源スイッチを[ON]位置に合わせます。

フィルムが自動的に1枚目まで進み、表示パネルにフィルム枚数とフィルムマークが表示されます。

メモ 防傷カバーを取り外す

ご購入後、初めてフィルムを入れるときには、裏ぶたを開けて防傷カバーを取り外してください。このとき、防傷カバーがシャッター幕に触れないように注意してください。

メモ フィルムが正しく入っていないときには

表示パネルにEが点滅します。裏ぶたを開け、フィルムを入れ直してください。

BASIC
ベーシック

基本的な操作をマスターする

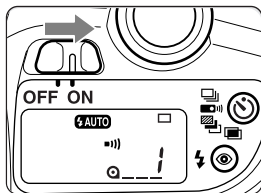
一番簡単に写真を撮る

一番簡単に写真を撮るための設定と、撮影操作について説明します。シャッターボタンを半押しにするだけでピントが自動調整され、露出もカメラが自動的に合わせます。

電源のON/OFF

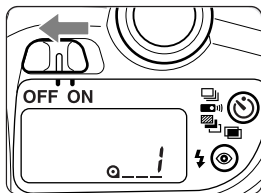
電源を入れ、表示パネルの表示を確認する操作について説明します。

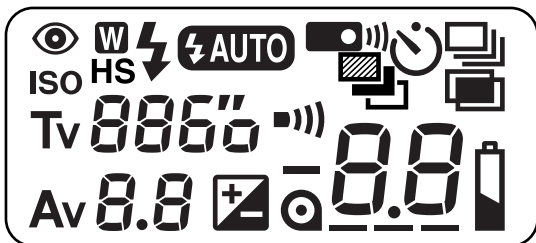
1 電源を入れる

①電源スイッチを[ON]位置に合わせます。

2 電源を切る

①撮影終了後、電源スイッチを[OFF]位置に合わせます。

メモ

- 必ず電源スイッチをOFFにしてください。電源スイッチがONの状態では、シャッターボタンが押されると電池を消耗します。
- オートピクチャー、ピクチャーモードあるいは、モードダイヤル[PF]位置では、電源ON時モードダイヤルがイルミネーション点灯し、同時に表示パネルの照明と電子音も鳴ります。ペンタックスファンクションで、パターンを変えたり、点灯しなくすることもできます。（☞ p.117）

メモ 表示パネルの表示ガイドについて

表示パネルには、以下のマークが表示されます。

表示パネルに表示されるマークには、以下のような種類があります。

- (ストロボマーク) ：ストロボ情報 ☞ p.32、p.34
- (赤目マーク) ：赤目軽減機能 ☞ p.89
- AUTO ：ストロボオートポップアップ、自動発光 ☞ p.32
- ISO ：フィルム感度設定 ☞ p.37
- Tv 886" ：シャッター速度
- (電池マーク) ：電池消耗 ☞ p.38
- (リモコンマーク) ：リモコン ☞ p.49
- (連続撮影マーク) ：連続撮影 ☞ p.46
- (電子音マーク) ：電子音 ☞ p.74
- (セルフタイマーマーク) ：セルフタイマー ☞ p.47
- (多重露出マーク) ：多重露出 ☞ p.54
- Av 8.8 ：絞り
- (露出補正マーク) ：露出補正 ☞ p.71
- (フィルムマーク) ___ ：フィルム状態 ☞ p.22
- -8.8 ：フィルム枚数、露出補正値 ☞ p.22、72
- W ：ワイヤレス発光 ☞ p.102
- HS ：ハイスピードシンクロ ☞ p.101
- (オートブラケットマーク) ：オートブラケット ☞ p.51

参考

暗いところでは表示パネルが自動的に照明されます。

一番簡単に写真を撮るための設定

一番簡単に写真を撮るために、1コマ撮影、オートピクチャーモード、ワイドAF、オートフォーカスに設定します。

電池やフィルム、レンズなどのセット方法については「準備しましょう」を参照してください。

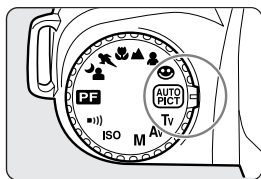
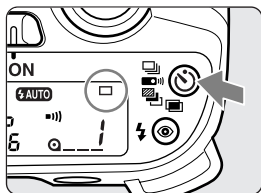
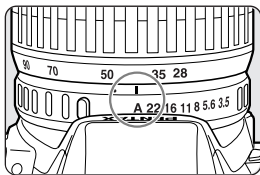
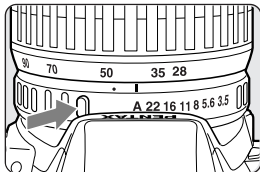
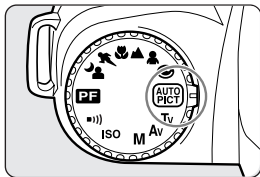
1 1コマ撮影に設定する

①ドライブボタンを押し□を表示させます。

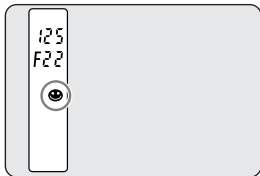
1コマ撮影では、シャッターボタンを1回押すと、1枚だけ撮影します。

撮影モードには、その他に連続撮影(☞p.46)、セルフタイマー撮影(☞p.47)、リモコン撮影(☞p.49)、オートブラケット撮影(☞p.51)、多重露出撮影(☞p.54)があります。

2 オートピクチャーモードに合わせる

①モードダイヤルを[AUTO PICT]に合わせます。

②レンズの絞りを[A]に合わせます。

③絞りを[A]位置にする場合、[A]から外す場合は、絞りオートロックボタンを押しながら回してください。

④ファインダー内とモードダイヤルには、選択されているピクチャーモードが表示されます。

このモードは、最も簡単な露出モードで、カメラが自動的に露出合わせをしますので、シャッターボタンを押すだけで簡単に撮影が楽しめます。

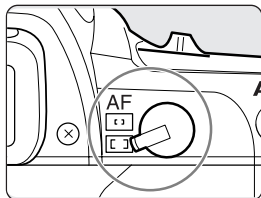
メモ

- オートピクチャーモードでは、写す物の大きさなどにより、カメラが自動的に5つのピクチャーモードの中から最適なピクチャーモードを選びます。各ピクチャーモードの特徴については、☞ p.56を参照してください。
- オートピクチャーモードは、F･FAレンズでのみ可能です。Aレンズでは、標準モード固定となります。☞ p.57を参照してください。
- 他の露出モードについては、☞ p.56、p.63を参照してください。

3 測距方式をワイドAFにします

①AFエリア切り替えレバーを下側に動かし[〔 〕]位置に合わせます。

ワイドAFは、写したいものが中央になくても、中抜けをしにくくする最も一般的なモードです。

メモ

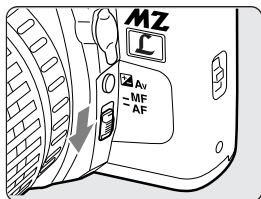
このカメラでは、ワイドAF以外にスポットAFがご使用いただけます。詳しくは、☞p.80を参照してください。

4 オートフォーカスに設定する

①フォーカスモードレバーを下側にし[AF]位置に合わせます。

AF位置にすると、シャッターボタンを半押しにするだけで、自動的にピント合わせを行います。ピントが合うまでシャッターは切れません。また、一度ピントが合うとシャッターボタン半押しの間、ピントは固定されます。

メモ **その他のピント調整について**

ピント調整には、その他に以下の方法があります。

- MF…手動でピントを調整します。☞p.78

写真を撮る

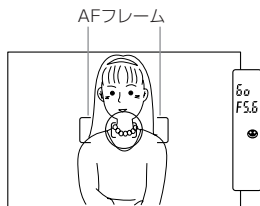
1コマ撮影、オートピクチャー、オートフォーカスに設定後、写真を撮る操作について説明します。

電池やフィルム、レンズなどのセット方法については「準備しましょう」を参照してください。

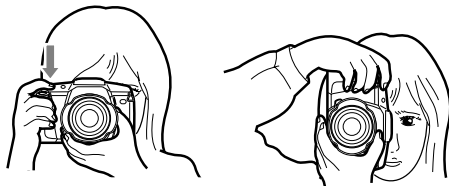
1 撮るものをファインダーに入れる

①ファインダーをのぞき、撮るものをファインダーに入れます。

AFフレーム〔 〕が、自動でピントの合う範囲です。この範囲に、ピントを合わせたい対象を入れるようにしてください。

AFフレーム

※ ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

メモ カメラの構えかた

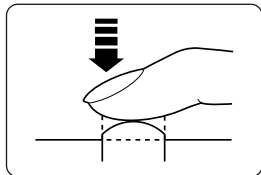
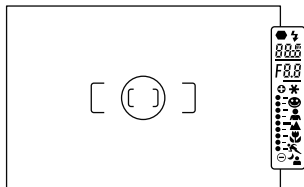
- 撮影するときは、カメラを両手でしっかりと持ってください。

- 木や建物、テーブルなどを利用して体やカメラを安定させると効果があります。
- 個人差はありますが、一般的に(1/焦点距離)が手持ちの場合の限界シャッター速度とされています。50mmでは1/50秒、100mmでは1/100秒を目安にしてください。これ以下のシャッター速度になる場合は、なるべく三脚をご使用ください。
- 望遠レンズで三脚を使用する場合は、カメラやレンズの総重量より重い三脚を使うことで、カメラのぶれ防止に効果があります。

メモ ズームレンズの使いかた

もっと広い範囲を撮りたい場合は、ズームリングを左に回します。もっと大きくしたい場合は、ズームリングを右に回します。

2 シャッターをきる

①シャッターボタンを指の腹で軽く押し、半押しの状態にします。

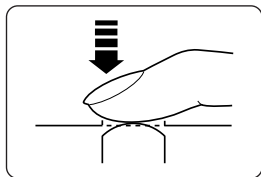
ファインダー内に撮影情報(シャッター速度、絞り値、ストロボ状態)が表示されます。

オートフォーカスでの撮影については、☞ p.75を参照してください。

ファインダー内の表示について

※ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

- 【 ( ) 】 :AFフレーム ☞ p.29
- 88.8 :シャッター速度
- F8.8 :絞り表示
- :標準モード ☞ p.57
- :人物モード ☞ p.58
- :風景モード ☞ p.59
- :近接モード ☞ p.60
- :動体モード ☞ p.61
- :夜景モード ☞ p.62
- :ストロボ情報 ☞ p.32
- :ピント情報 ☞ p.76
- :AEロック ☞ p.73
- :バーグラフ ☞ p.68、72
- ○ :スポット測光範囲円 ☞ p.73

※サービスサイズのカラープリントでは、画面周辺の物がプリントされないことがあります。構図に少し余裕を持たせてください。

※シャッター速度が遅くて手ぶれの可能性がある場合、ファインダー内の表示が緑色からオレンジ色に変わります。

②ファインダー内の撮影情報を確認して、シャッターボタンをさらに最後まで押し込みます。

内蔵ストロボについて

内蔵ストロボを使用するときの基本操作について説明します。

メモ

内蔵ストロボの発光方式を設定する操作や、外付けストロボの使用については「ストロボを使用して撮影する」（☞ p.87）を参照してください。

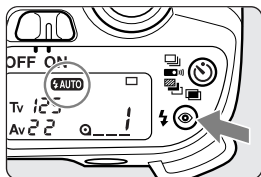
内蔵ストロボを使用する

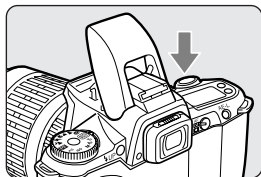
内蔵ストロボをオートポップアップにする操作について説明します。内蔵ストロボが必要なときは、自動的に上がります。

メモ

- 内蔵ストロボを使用するときは、レンズフードは使用しないでください。ストロボの光を遮ることがあります。
- 内蔵ストロボは、使用するレンズによっても違いますが、被写体との距離約4メートル以内を目安としてご使用ください。（フィルム感度がISO400の場合）

1 ストロボオートポップアップにする

①ストロボモードボタン[◉] を押して ⚡AUTO を表示させます。

②ストロボが必要なときは、シャッターボタンを半押しすると、自動的にストロボが上がります。

③表示パネルやファインダー内の充電完了マーク（⚡点灯）を確認して撮影してください。

- ストロボが必要なときだけ発光します。（自動発光）
- ストロボは自動的に収納されません。
- オートポップアップが選択できるのは、露出モードがオートピクチャーとピクチャーモードの場合だけです。
- ストロボモードボタン[◉]の機能については、☞ p.88を参照してください。
- ストロボが上がった後でも強制発光ボタン[⚡UP]を押すと、表示パネルの⚡AUTOが消え、常にストロボが発光する強制発光モードになります。

メモ

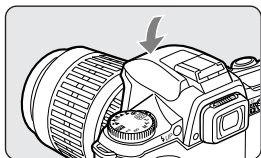
- ストロボ充電中は、シャッターは切れません。
- ストロボを連続して使用すると、電池が多少温かくなることがありますが、異常ではありません。
- 内蔵ストロボは暗い場合だけでなく、逆光の場合にも上がります。
- 内蔵ストロボの撮影可能距離範囲より写すものが遠い場合や近い場合も、ストロボが上がりますので十分ご注意ください。撮影可能距離については、☞ p.90を参照してください。
- ストロボ撮影に不適切なレンズ使用の場合も、ストロボが上がりますので十分ご注意ください。不適切レンズについては、☞ p.92を参照してください。

メモ ϟが点滅しているときは

ストロボ撮影に不適切なF･FAレンズを使用すると、充電完了後にシャッターボタンを半押したときに、ファインダー内と表示パネルにϟが点滅します。その状態でもストロボを発光して撮影できますが、写真の四隅や下半分が暗くなる場合があります。

「内蔵ストロボ使用時のF･FAレンズ適合表」☞ p.92

2 内蔵ストロボを収納する

①撮影終了後、図のようにして内蔵ストロボの上部を押して収納します。

メモ AF補助光の発光について

暗い所で、シャッターボタンを半押しすると、内蔵ストロボが連続的に発光することがあります。これは、オートフォーカスを作動しやすくするためです。

- AF360FGZやAF500FTZなど、外付けストロボのAFスポットビーム補助光を利用する場合は、内蔵ストロボの補助光は作動しません。
- 露出モードが動体モード🏃になっている場合、フォーカスモードレバーが[MF]位置になっている場合は、AF補助光は発光しません。
- AF360FGZなどのスレーブ機能を使用する場合、AF補助光が作動すると、外付けストロボが発光してしまいますので、スレーブ使用時はフォーカスモードレバーをMFにしてお使いください。
- 電池消耗警告▯が点滅していなくてもAF補助光が発光しないことがあります。
- AF補助光が有効な距離は、条件にもよりますが、およそ1～5mです。

フィルムの巻き戻しと設定について

フィルムの巻き戻し(自動/途中巻き戻し)と、DXフィルム以外を使用するときのISO感度の設定について説明します。

フィルムを巻き戻す

フィルムの自動巻き戻しと、途中巻き戻しについて説明します。

フィルムを取り出すときは、直射日光の当らないところで取り出してください。

◆フィルムの自動巻き戻し

フィルムの規定枚数以上の撮影をすると、最後のコマは現像所でカットされる場合があります。大切な写真は、規定枚数を撮り終えた時点で途中巻き戻しを行ってください。

①フィルムを最後まで撮影すると、自動的に巻き戻しが始まります。

巻き戻し中は、撮影枚数表示が減り、「◉」が点滅します。巻き戻しが終了するとフィルムマークが点滅して撮影枚数の表示が消えます。

②撮影枚数の表示が消えて が点滅していることを確認し、裏ぶた開放レバーを下げて裏ぶたを開け、フィルムを取り出します。

メモ

巻き戻し終了時にフィルムの先端を残すかどうかをペンタックスファンクションで設定できます。(☞ p.118)

◆フィルムの途中巻き戻し

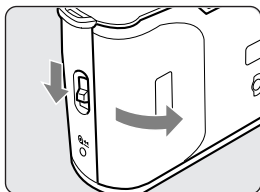
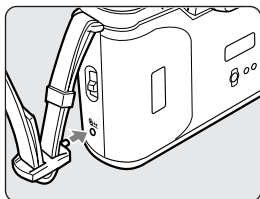
フィルムの規定枚数を撮り終えていない時点で、フィルムを巻き戻します。

①電源スイッチを[ON]位置に合わせます。

②ストラップ留め具の突起部分で、カメラの側面にある途中巻き戻しボタンを押します。

途中巻き戻しボタンを傷付けることがありますので、できるだけストラップ留め具以外は使わないでください。やむを得ない場合は、ボールペンの先などで、押し込み過ぎに気をつけて行ってください。

③撮影枚数の表示が消えて が点滅していることを確認し、裏ぶた開放レバーを下げて裏ぶたを開け、フィルムを取り出します。

巻き戻し終了時にフィルムの先端を残すかどうかをペンタックスファンクションで設定できます。(☞ p.118)

DXフィルム以外を使用するときの感度を設定する

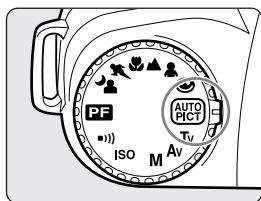
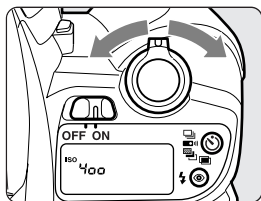
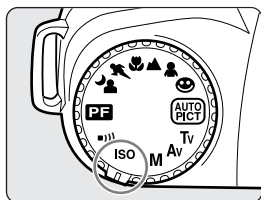
DXのフィルムは、自動的に感度が設定されます。DX以外のフィルムを使用するときは、以下の操作で、フィルム感度を設定してください。

1 フィルム感度を設定する

①モードダイヤルを[ISO]位置に合わせます。

②セレクトレバーを左右に回し、フィルム感度を設定します。

- フィルム感度の設定範囲は、ISO 6〜6400 1/3段階(EV)です。
- DXフィルムを使用しているときに、DXフィルムの感度と違う感度を設定すると「ISO」が表示されたままになります。

③設定終了後、モードダイヤルを回し、[ISO]位置以外に戻します。

電池の交換について

撮影に必要な電池（リチウム電池CR2）の交換が必要なときと、日付や時刻の写し込みが薄くなったときの電池(リチウム電池CR2025)の交換について説明します。
また、電池を交換後の日付や時刻の修正方法について説明します。

撮影に必要な電池の交換について

撮影に必要な電池（リチウム電池CR2）が消耗したときには新しい電池と交換してください。

◆電池が消耗した場合

電池が消耗すると、電池消耗警告▯が点灯します。

新しい電池（リチウム電池CR2）をご用意ください。電池消耗警告▯が点灯した状態でも、シャッターがきれれば露出に問題はありません。

◆電池交換が必要な場合

電池消耗警告▯が点滅すると、ファインダー内表示が消え、カメラは作動しなくなります。新しい電池（リチウム電池CR2）に交換してください（☞ p.15）。

- 電池を交換するときは新しい電池と古い電池を混ぜてセットしないでください。また、交換する電池は同一メーカーの同一種類の電池を使用してください。
- 電池を交換すると設定が以下のようになります。それ以外は変更されません。

  ストロボ発光モード…………………… オートポップアップ/自動発光
  ドライブモード…………………………1コマ撮影
  電子音……………………………………鳴る

- 長期間カメラを使用していない場合、新しい電池に交換しても、電池消耗警告が点灯することがあります。この場合は、電源を入れ、シャッターボタンを半押しにすることで、電池消耗警告が消えれば、そのまま使用できるようになります。

メモ フィルムの撮影本数と電池消耗について

電池交換の目安として、新しい電池を交換後、撮影できるフィルム本数(24枚撮りフィルム)の目安を表記します。

	フィルム本数 （使用温度20℃）	フィルム本数 （使用温度-10℃）
一般撮影	約120本	約　30本
ストロボ撮影(使用率50%)	約　20本	約　15本
ストロボ撮影(使用率100%)	約　12本	約　5本
バルブ露出時間	約　8時間	約　2時間

- 上記表は、新品のリチウム電池CR2での当社試験条件によるものです。
- 撮影可能なフィルム本数は、使用条件によって変わります。
- 低温では、一時的に電池の性能が低下することがありますが、常温に戻れば使用できます。また、低温では撮影できるフィルム本数は少なくなります。
- 同梱されている電池は、サンプル用のため、上記のフィルム本数を撮影できないことがあります。

日付や時刻の写し込みが薄くなったときの電池交換

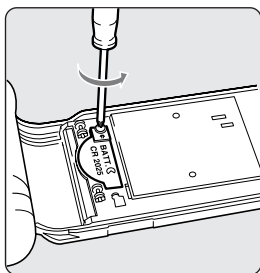
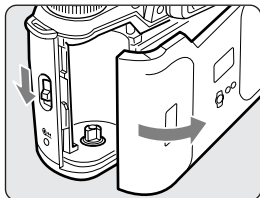
日付や時刻の表示や写し込みが薄くなったときは、内蔵電池(リチウム電池CR2025)の交換が必要です。

メモ

- リチウム電池CR2025の寿命は、約3年です。日付や時刻の表示や写し込みが薄くなってきたり、写らなくなった場合は、必ず新しいリチウム電池CR2025に交換してください。
- 電池交換は、最寄のサービスセンターでも有料で承ります。
- 電池交換後は、日付や時刻を修正して使用してください(☞ p.42)。

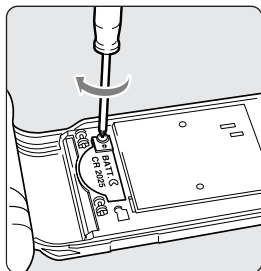
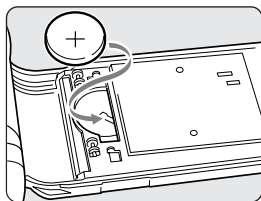
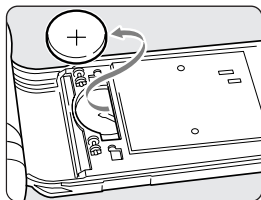
1 古い電池を取り外す

①フィルムが入っていないことを確認して、裏ぶた開放レバーを下げ、裏ぶたを開きます。

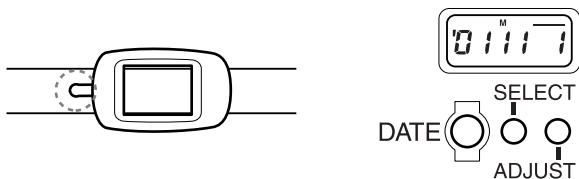
②裏ぶた内側にあるBATT.☾マークで示されている電池ぶたを、ドライバーを使って取り外します。

③古い電池を取り出します。

2 新しい電池をセットする

①新しい電池の[+]側を上にしてセットします。

②電池ぶたを元の位置に戻し、ドライバーを使って取り付けます。

日付時刻を修正する

内蔵電池を交換したときや、任意に日付を修正する操作について説明します。

- 説明中の[DATE]以外のボタンを押す操作は、ストラップ留め具の突起部分を使用してください。

- 日付や時刻の表示形式の設定については、「日付や時刻を写し込む」(☞ p.18)を参照してください。

1 日付を修正する

①[SELECT]ボタンを押して、年月日表示のうち修正したい数字を点滅させます。

点滅の順番は、年→月→日→年の順番です。

②[ADJUST]ボタンを押して、数字を修正します。

1回押すごとに数字が1つ進みます。押し続けると約2〜3秒後に早送りされます。

③数字を修正後、[SELECT]ボタンを押すと、点滅が終了し修正した数字を確定します。

2 時分秒を修正する

①[SELECT]ボタンを押して、時・分・[　：　]表示のうち修正したい数字(秒の場合は[　：　])を点滅させます。

点滅の順番は、時→分→[　：　]→時の順番です。

②[ADJUST]ボタンを押して、数字を修正します。

1回押すごとに数字が1つ進みます。押し続けると約2〜3秒後に早送りされます。

③数字を修正後、[SELECT]ボタンを押すと、点滅が終了し修正した数字を確定します。

メモ　日付時刻の写し込みについて

- 写真に日付時刻を写し込むかどうか、写し込む日付時刻の形式の設定については、「日付や時刻を写し込む」(☞ p.18)を参照してください。
- 日付や時刻を写し込むことができるできる条件は以下の通りです。

  温度……………約0℃〜50℃

  ＊ただし、低温下では、写し込まれる日付時刻が薄くなることがあります。

  フィルム感度…ISO25〜1600

  ＊高感度フィルム(ISO 1000以上)を使用した場合、日付時刻がにじむことがあります。
  ＊ISO　50以下のフィルムを使用した場合、日付時刻が薄くなることがあります。
- 日付時刻を修正中(数字が点滅中)に、シャッターをきっても日付時刻は写し込まれません。

STEP UP
ステップアップ

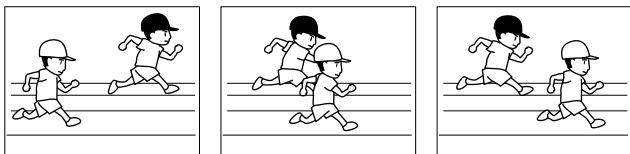
機能をフルに活用する

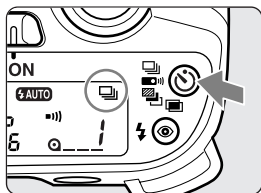
いろいろな撮影方法について

本機には、1コマずつ撮影する（1コマ撮影）機能のほかに、以下の撮影機能があります。

- **連続撮影**…シャッターボタンを押し続けている間、連続的にシャッターがきれます。☞ p.46
- **セルフタイマー撮影**…シャッターボタンを押した後、約12秒後にシャッターがきれ、撮影者も含めての撮影ができます。☞ p.47
- **リモコン撮影**…カメラから離れた所から撮影できます。☞ p.49
- **オートブラケット撮影**…撮影時に、露出補正なし/アンダー露出/オーバー露出の3枚の露出を変えた写真を連続して撮影できます。☞ p.51
- **多重露出**…前の写真に、写真を重ねて撮影します。☞ p.54

連続で撮影する

シャッターボタンを押し続けている間、連続的にシャッターがきれます。

1 連続撮影モードに設定する

①ドライブボタンを押して、⧉表示を出します。

2 連続で撮影するー連続撮影

①シャッターボタンを半押しにして、写したいものにピントを合わせます。

②シャッターボタンを押し続けます。

③シャッターボタンから指を離すと、連続撮影を終了します。

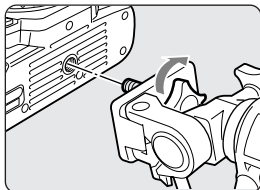
メモ

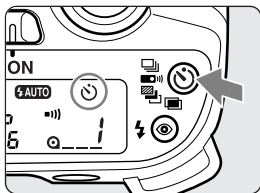
- シャッターが1回きれるごとにピント調整を行います。
- 内蔵ストロボを使用している場合、充電が完了してからシャッターがきれます。

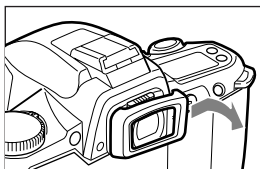
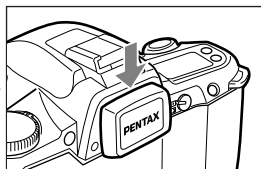
セルフタイマーで撮影するーセルフタイマー撮影

シャッターボタンを押した後、約12秒後にシャッターがきれます。

1 カメラに三脚を取り付ける

①カメラの三脚ネジ穴に三脚を取り付けます。

2 セルフタイマーモードに設定する

①ドライブボタンを押して、ꝺ表示を出します。

メモ **ファインダーからの逆入光を防ぐには**

自動露出でセルフタイマー撮影するときは、ファインダーから入る光を防ぐために、AEロック機能(☞ p.73)や付属のファインダーキャップをご利用ください。

アイカップを取り外す

ファインダーキャップをセットする

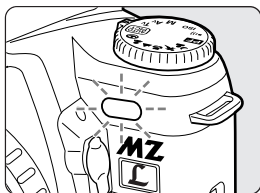
3 セルフタイマーモードで撮影する

①シャッターボタンを半押しにして、写したいものにピントを合わせます。

②シャッターボタンを押しきります。

セルフタイマーランプが点滅し、シャッターがきれる約2秒前から速い点滅に変わり、電子音も速い「ピッピッピッ」という継続音に変わります。シャッターボタンを押しきった後、約12秒後にシャッターがきれます。

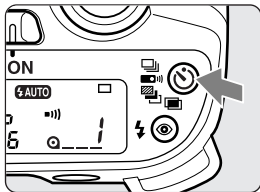
メモ

電子音は、消すことができます。☞ p.74を参照してください。

4 セルフタイマーモードを解除する

①ドライブボタンを押して、ⓢ表示を消します。

セルフタイマーモードを終了します。

メモ

セルフタイマーが動作中でも、ドライブボタンを押すことで解除できます。

リモコンで撮影する－リモコン撮影

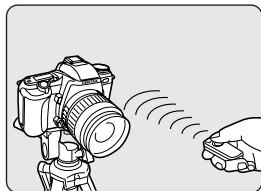
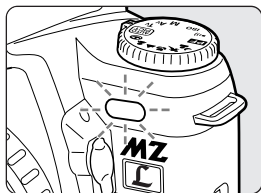
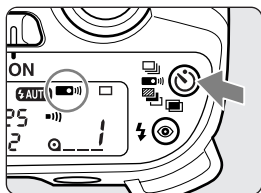
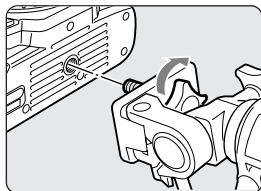
カメラから離れた所から撮影ができます。リモコンのシャッターボタンを押すと約3秒後に撮影できます。

①カメラの三脚ネジ穴に三脚を取り付けます。

②ドライブボタンを押してを表示させます。

リモコンの解除は、ドライブボタンを押して表示を消してください。

③セルフタイマーランプがゆっくり点滅します。

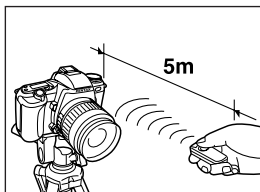
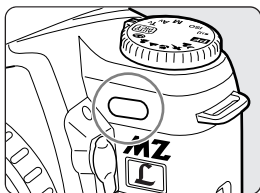
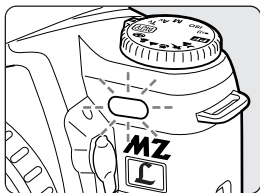
④リモコンをカメラに向けリモコンのシャッターボタンを押します。

⑤セルフタイマーランプが3秒間速い点滅をした後、撮影されます。このとき、電子音も鳴ります。

電子音は、消すことができます。☞p.74を参照してください。

⑥撮影が終了すると、セルフタイマーランプが約2秒間点灯し、その後点滅に戻ります。

リモコン撮影できる距離はカメラ正面から約5mです。

メモ

- リモコン撮影でのピント合わせを行うか行わないかをペンタックスファンクションで設定できます。（☞p.116）
  ピント合わせをするにした場合、リモコンのシャッターボタンから指を離しても、ピントが合うか、ピントが合わないと判断するまで、作動が断続します。また、ピクチャーモードで動体モードを選択すると、ピント合わせは行いません。
- リモコンを始動後に解除する場合は、ドライブボタンを押してください。
- ペンタックスファンクションで、リモコンの作動時間を3秒から即撮影に設定できます。（☞p.116）
- 逆光時はリモコン撮影ができないことがあります。
- ストロボ充電中はリモコン操作はできません。
- リモコンのシャッターボタンを押しても内蔵ストロボのオートポップアップは働きません。
- リモコン撮影モードのまま、約5分間放置すると、自動的に1コマ撮影に戻ります。

メモ **リモコン用電池について**

約30,000回送信することができます。電池の交換はサービス窓口にご用命ください。［有料］

自動で露出を変更して連続撮影するーオートブラケット

シャッターボタンを押したときに、露出が違う写真を連続して撮影できます。1枚目は補正なしの写真、2枚目はマイナス側の写真、3枚目はプラス側の写真を撮影します。
マイナス側、プラス側の露出補正値の幅は、±1/2段階(EV)です。

ペンタックスファンクションで補正値の幅を±1/2段階(EV)以外に設定できます。(☞ p.115)。

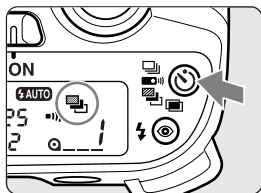
補正なしの写真

−1/2段階(EV)の写真

＋1/2段階(EV)の写真

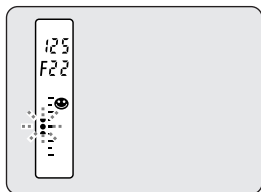
補正量が小さい場合、ネガフィルムではほとんど効果が得られませんのでご注意ください(特にネガカラーのオートプリント仕上げの場合)。

1 オートブラケットモードに設定する

①ドライブボタンを押して、表示を出します。

2 オートブラケットモードで撮影する

①シャッターボタンを半押しにして、写したいものにピントを合わせます。

ファインダー内に、バーグラフが表示され、現在の露出補正値が点滅します。

1枚目のピント位置で、フォーカスロックされます。

②シャッターボタンを押し続けます。

ファインダー内のバーグラフが、1枚目は補正なし、2枚目はマイナス側、3枚目はプラス側に点滅し、3枚の写真が撮影されます。撮影後、1コマ撮影に戻ります。

メモ

- ペンタックスファンクションで、撮影後に1コマ撮影に戻らないように設定できます。(☞ p.115)
- 撮影途中でシャッターボタンを離しても、約20秒間は設定値が保持され、次の補正値で撮影できます。この場合、各コマ毎にピント合わせが行われます。約20秒を過ぎると1枚目からの撮影状態に戻ります。

メモ　オーバー方向やアンダー方向のみの写真を撮るには

露出補正機能（☞p.71）と組み合わせることで、オーバー方向のみやアンダー方向のみのオートブラケット撮影ができます。
いずれの場合も、露出補正値を中心にしたオートブラケット撮影となります。
<例>

●オーバー方向のみの写真を撮るには

[±1/2]段階（EV）....... 露出補正を[＋1/2]にします。
1コマ目＝＋1/2EV、2コマ目＝±0EV、3コマ目＝＋1EV

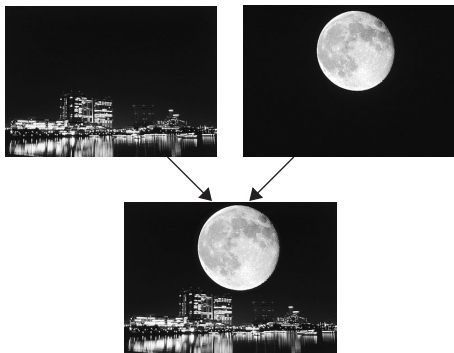
●アンダー方向のみの写真を撮るには

[±1/2]段階（EV）....... 露出補正を[－1/2]にします。
1コマ目＝－1/2EV、2コマ目＝－1EV、3コマ目＝0EV

メモ

- マニュアル露出でもオートブラケット撮影が可能です。レンズの絞りが[A]位置以外の場合は、シャッター速度だけが変化します。（バルブ撮影を除く）
- 内蔵ストロボあるいは、外付けストロボ（TTL、P-TTLオートの場合のみ）充電完了後にオートブラケット撮影を行うことで、ストロボの光量だけを連続的に変化させることができます。ただし、外付けストロボでは、カメラのシャッターボタンを押したまま3コマ連続に撮影すると、充電完了前に2コマ目、3コマ目が撮影されてしまうことがありますので、必ず1コマごとに充電完了を確認してから撮影してください。

前の写真に重ねて撮影する―多重露出撮影

フィルムの同じコマに重ねて撮影できます。
例えば、背景が暗いもの(夜景など)を先に撮影し、同じコマに人物などにストロボを発光した写真を重ね合わせるなどの撮影ができます。

1 多重露出モードに設定する

①ドライブボタンを押して、■表示を出します。

撮影枚数が点滅します。

2 多重露出モードで撮影する

①1枚目の写真を撮影します。

撮影枚数と■表示が点滅します。

②1枚目の写真に重ね合わせる写真を撮影します。フィルムが巻き上がり1コマ撮影に戻ります。

3枚以上の写真を重ねる場合は、手順①の後に、再度ドライブボタンを押して撮影枚数のみの点滅にしてください。

メモ

電源スイッチを[OFF]にしても、多重露出モードは解除されません。解除するときは、電池を一旦抜いてください。

ピクチャーモードの使い方について

このカメラには、写す物の大きさなどによって、自動的に最適なピクチャーモードを選ぶオートピクチャーモードがありますが、好みのピクチャーモードを前もって選ぶこともできます。ピクチャーモードには、下記のように6つのモードがあります。

1 絞りオートロックボタンを押しながらレンズの絞りを[A]位置にする

2 モードダイヤルを好みの位置に合わせる

参考 露出警告について

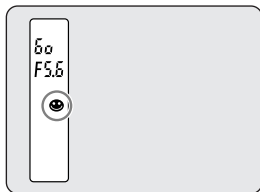
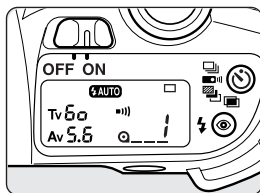
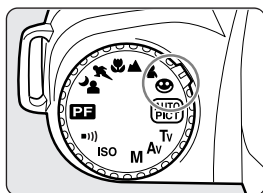
写したい物が明るすぎたり暗すぎるときは、表示パネルとファインダー内のシャッター速度と絞り値表示が点滅します。明るすぎるときは、NDフィルターをお使いいただくか、もう少し暗いところにカメラを向け直してください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

標準モード ☻

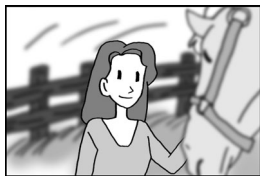
一般的な撮影をするときにこのモードを使うと便利です。

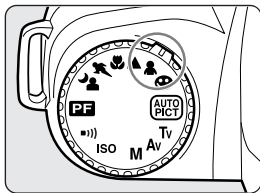
1 モードダイヤルを[☻]に合わせる

①モードダイヤルの ☻ ランプが、点灯します。

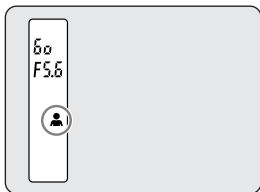
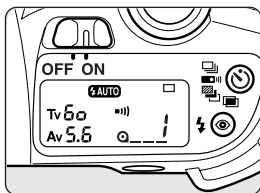
②表示パネルとファインダー内には絞り値とシャッター速度が表示されます。

ファインダー内には☻も表示されます。

人物モード

人物撮影をするときにこのモードを使うと便利です。

1 モードダイヤルを[ ]に合わせる

①モードダイヤルの ランプが、点灯します。

②表示パネルとファインダー内には絞り値とシャッター速度が表示されます。

ファインダー内には も表示されます。

このモードで人物撮影をすると、望遠系のレンズではバックをぼかすことができます。一方、広角系のレンズでは、集合写真に便利なように比較的広い範囲にピントが合うようになっています。

風景モード ▲

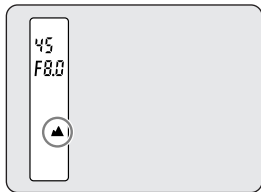
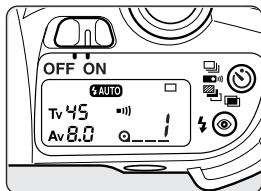
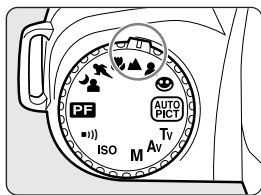
風景撮影をするときにこのモードを使うと便利です。

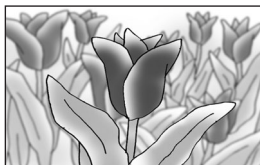
1 モードダイヤルを[▲]に合わせる

①モードダイヤルの ▲ ランプが、点灯します。

②表示パネルとファインダー内には絞り値とシャッター速度が表示されます。

ファインダー内には▲も表示されます。

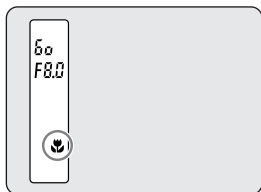
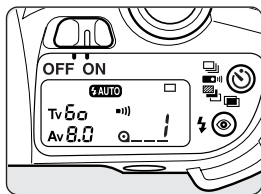
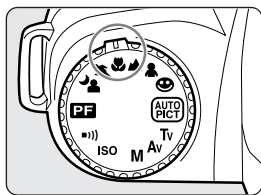
このモードで風景撮影をすると、近くから遠くまで風景全体にピントの合った写真が撮れます。

近接モード 🌷

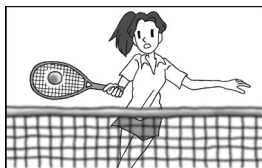
花などを近くで撮影するときに使うと便利です。

1 モードダイヤルを[🌷]に合わせる

①モードダイヤルの 🌷 ランプが、点灯します。

②表示パネルとファインダー内には絞り値とシャッター速度が表示されます。

ファインダー内には🌷も表示されます。

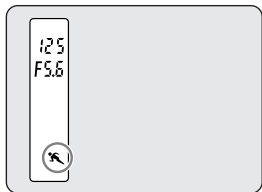
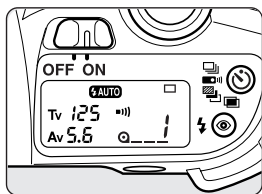
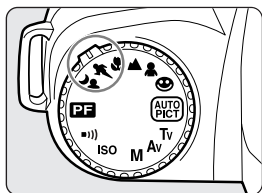
このモードで撮影を行うと、ピントの合う範囲が広くなっていますので、シャープな写真が撮れます。

動体モード 🏃

動きの速い物を写すときに使うと便利です。

1 モードダイヤルを[🏃]に合わせる

①モードダイヤルの 🏃 ランプが、点灯します。

②表示パネルとファインダー内には絞り値とシャッター速度が表示されます。

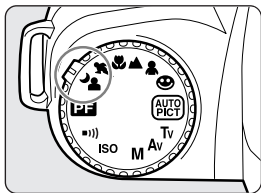
ファインダー内には🏃も表示されます。

- このモードで撮影すると、動きの速いものでもぶれずに動きを止めてはっきりとした写真を撮ることができます。
- 動体モードでは、シャッターボタンを半押ししている間、常にピントを合わせ続けます。シャッターボタンを押し込むと、ピントの状態に関係なくいつでもシャッターが切れます。ペンタックスファンクションで、ピントが合った時点でフォーカスロックするように設定できます。（☞p.117）

夜景モード

ストロボを利用して夜景を生かした人物撮影をするときに使うと便利です。

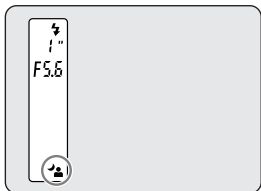
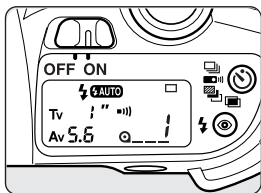
1 ストロボ撮影ができる状態にする

2 モードダイヤルを[ ]に合わせる

①モードダイヤルの ランプが、点灯します。

②表示パネルとファインダー内には絞り値とシャッター速度が表示されます。

ファインダー内には も表示されます。

ストロボ撮影で、写すものが暗い場合、シャッター速度が1秒まで下がりますので、背景を生かしたストロボ撮影ができます。

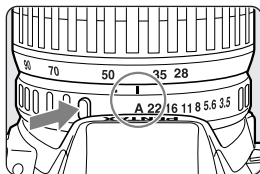
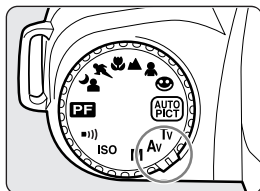
- カメラぶれを防ぐため、三脚をご利用ください。
- ストロボを使用しない場合の制御は、標準モードの場合と同様です。

露出設定について

各露出モードは、下表のようにモードダイヤルと絞りの組み合わせによって決まります。

モードダイヤル		AUTO PICT		Tv	Av	M
絞り	A	オートピクチャー	ピクチャー	シャッター優先	絞り優先	マニュアル
	A以外	絞り優先	絞り優先	絞り優先	絞り優先	マニュアル

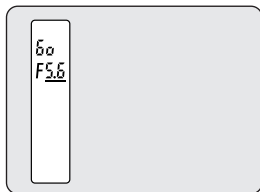
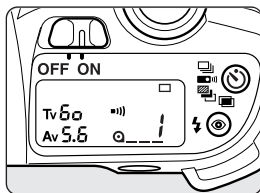
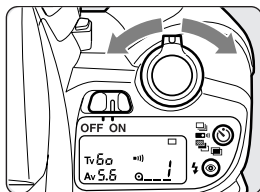
絞り優先自動露出で撮影する

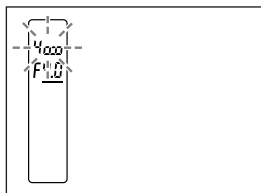
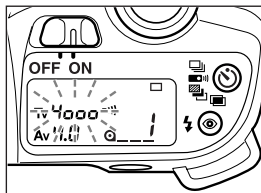
明るさに応じてシャッター速度が自動的に変わります。ピントの合う範囲を広くしたい風景写真や、背景をぼかしたい人物の撮影などに適しています。絞りの効果については、☞ p.85ページを参照してください。

1 絞りオートロックボタンを押しながら絞りを[A]位置に合わせる

2 モードダイヤルを[Av]に合わせる

3 絞り値を選ぶ

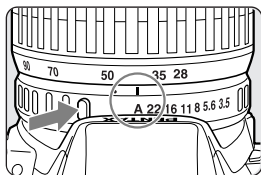
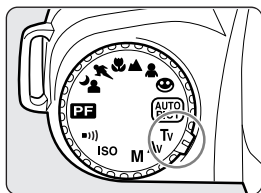
①セレクトレバーで好みの絞りを選びます。

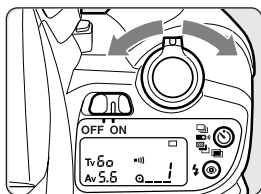
②表示パネルとファインダー内に絞り値とシャッター速度が表示されます。

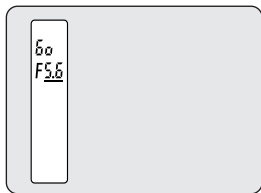
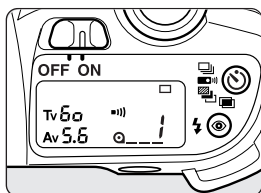
- ファインダー内の絞り値の下には、現在絞りが変更可能であることを示すアンダーバー[−]が表示されます。
- 絞りが[A]位置以外でも絞り優先自動露出ができます。絞りリングを回して好みの絞りを選んでください。この場合、モードダイヤルは[AUTO PICT]、[☻]、[👤]、[▲]、[✿]、[🏃]、[☾👤]、[**Tv**]、[**Av**]のどの位置でも結構です。ただし、絞り値表示は目安ですので、設定絞りと一致しないことがあります。
- 絞り[A]位置以外で、絞り値の目安が表示されるのは、FAおよびFレンズの場合だけです。
- 表示パネルの絞り値は、電源がONであれば常に表示されます。

参考 露出警告について

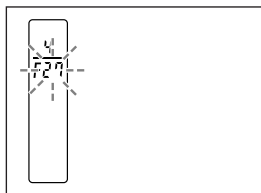
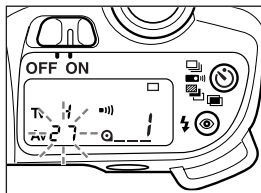
写したい物が明るすぎたり暗すぎるときは、表示パネルとファインダー内のシャッター速度表示が点滅します。明るすぎるときは絞りを小絞り側（数字の大きい方）に、暗すぎるときは絞りを開放側（数字の小さい方）にして点滅が止まれば撮影できます。
なお、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅した場合は測光範囲外ですから、絞りを変えても適正露出は得られません。明るすぎるときは、NDフィルターをお使いいただくか、もう少し暗いところにカメラを向け直してください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

シャッター優先自動露出で撮影する

明るさに応じて絞りが自動的に変わります。速い速度で動きを止めたり、遅い速度で動感を出すのに適しています。シャッター速度の効果については、☞ p.84ページをご覧ください。

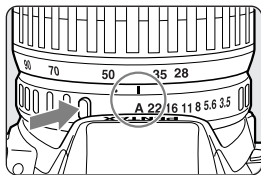
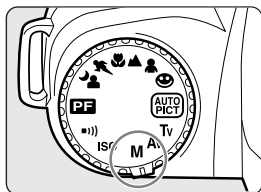
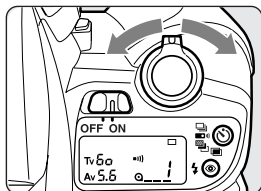
1 絞りオートロックボタンを押しながら絞りを[A]位置に合わせる

2 モードダイヤルを[Tv]に合わせる

3 シャッター速度を選ぶ

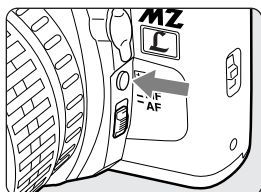
①セレクトレバーで好みのシャッター速度を選びます。

②表示パネルとファインダー内にシャッター速度と、絞り値が表示されます。

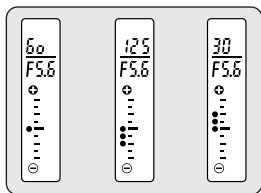
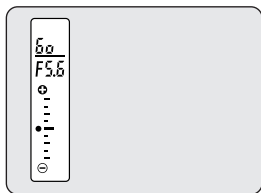
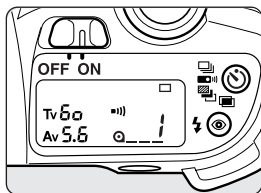
- ファインダー内のシャッター速度の下には、現在シャッター速度が変更可能であることを示すアンダーバー[－]が表示されます。
- 表示パネルのシャッター速度は、電源がONであれば常に表示されます。

参考 露出警告について

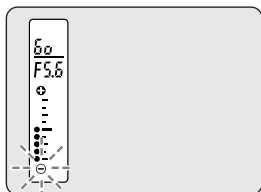
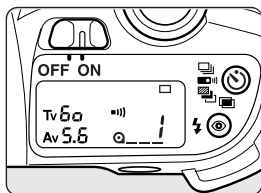
写したい物が明るすぎたり暗すぎるときは、表示パネルとファインダーの絞り値表示が点滅します。明るすぎるときはシャッター速度を速く、暗すぎるときはシャッター速度を遅くして点滅が止まれば撮影できます。
なお、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅した場合は測光範囲外ですから、シャッター速度を変えても適正露出は得られません。明るすぎるときは、NDフィルターをお使いいただくか、もう少し暗いところにカメラを向け直してください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

マニュアル露出で撮影する

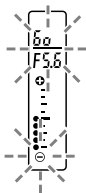
常に同じシャッター速度と絞りの組み合わせで撮影をする場合や、意図的に露出オーバー(明るい写真)や露出アンダー(暗い写真)にするときに使います。

1 絞りオートロックボタンを押しながら絞りを[A]位置に合わせる

2 モードダイヤルを[M]に合わせる

3 セレクトレバーで好みのシャッター速度を選ぶ

4 絞り値を選ぶ

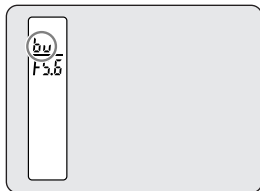
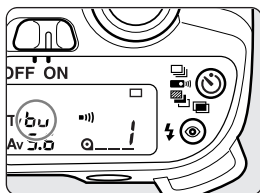
①側面ボタンを押しながらセレクトレバーで好みの絞り値を選びます。

②ファインダー内のバーグラフの黒丸が中心にあれば適正、[⊖]側に並んでいるときは露出アンダー、[⊕]側は露出オーバーです。

黒丸1つが1/2段階(1/2EV)に相当します。

③表示パネルとファインダー内に絞り値とシャッター速度が表示されます。

④露出が適正から2段階(2EV)以上離れた場合は、[⊕]あるいは[⊖]が点滅します。

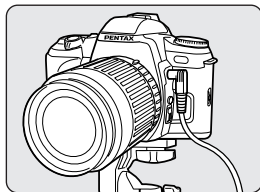
- ファインダー内のシャッター速度の下には、現在シャッター速度が変更可能であることを示すアンダーバー[－]が表示され、側面ボタンを押すと絞り値の下に絞りが変更可能であることを示すアンダーバー[－]が表示されます。
- 表示パネルのシャッター速度と絞り値は、電源がONであれば常に表示されます。
- マニュアル露出では、AEロックや露出補正はできません。
- 絞りが[A]位置以外でもマニュアル露出ができます。絞りリングを回して好みの絞りを選んでください。ただし、絞り表示は目安ですので、設定絞りと一致しないことがあります。
- 絞り[A]位置以外で、絞り値の目安が表示されるのは、FAおよびFレンズの場合だけです。

参考 露出警告について

写したい物が明るすぎたり暗すぎるときは、表示パネルとファインダー内のシャッター速度表示と絞り値表示の両方と[⊕]あるいは[⊖]が点滅し、測光範囲外を知らせます。シャッター速度や絞りを変えても適正露出は得られません。明るすぎるときは、NDフィルターをお使いいただくか、もう少し暗いところにカメラを向け直してください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

バルブで撮影する

花火、夜景などの撮影で長時間シャッターを開いておく必要のあるときにご利用ください。シャッターボタンを押し込んでいる間、シャッターが開き続けます。

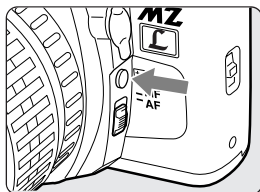
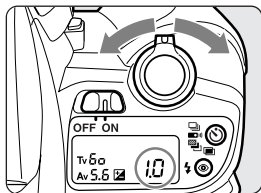
①マニュアル露出のときに、セレクトレバーでシャッター速度を低速側に移動させ、表示パネルとファインダー内に[bu]を表示させます。

②バルブで撮影するときは、ぶれ防止のためしっかりした三脚を使用し、別売りの「ケーブルスイッチCS-205」をご使用ください。

メモ

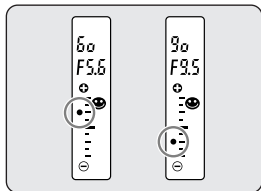
- 新品のリチウム電池(常温)で、約8時間の長時間露出ができます。
- リモコン撮影を利用すると、リモコンのシャッターを押している間、バルブ撮影が可能です。
- ファインダー内の表示はオレンジ色になります。

露出を補正する一露出補正

意図的に露出オーバー(明るい写真)や露出アンダー(暗い写真)を撮影できます。露出補正は、−3〜＋3段階[EV]の範囲で、0.5段階[EV]ごとに設定できます。

1 露出補正値を設定する

①側面ボタンを押しながらセレクトレバーを回し、好みの補正値を選びます。

②補正値は、表示パネルで確認しながら設定してください。補正中は[⊠]が表示されます。

③補正値は、ファインダー内のバーグラフで確認できます。

黒丸が[⊕]側にあれば露出オーバー、[⊖]側は露出アンダーの方向になります。一目盛が1/2段階(1/2EV)に相当します。

メモ

2段階を越えた設定をした場合は、ファインダー内のバーグラフの黒丸が点滅します。

メモ

- 露出補正はマニュアル露出および、バルブでは使えません。
- 露出補正は、−3〜+3段階(EV)の範囲で0.5段階(EV)ごとに行えます。
- 電源をOFFにしたり、他の露出モードにしても、露出補正は解除されません。

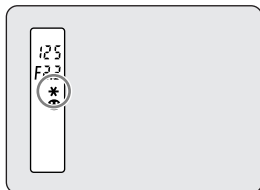
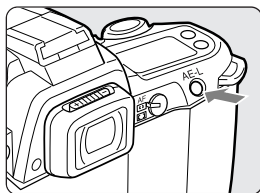
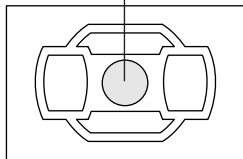
撮影前の露出を記憶させるーAEロック

AEロックは、撮影前の露出を記憶させる機能です。写したいものが小さく、適正な露出を得るのが難しいときや逆光撮影のときなどにお使いください。

1 AEロックを設定する

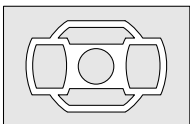
①AEロックボタン[AE-L]を押すと、その時点の露出(明るさ)を記憶します。もう一度押すと解除できます。

②AEロック中は、ファインダー内の[＊]が点滅表示します。

- AEロックボタン[AE-L]から指を離しても、20秒間は露出が記憶されています。AEロックボタンを押し続けたり、シャッターボタンを半押ししている間は露出が記憶され続けます。
- AEロックボタン[AE-L]を押すと、電子音が鳴ります。電子音は、消すことができます。☞ p.74を参照してください。
- AEロック中はオートポップアップは働きません。[⚡AUTO]表示も消えます。
- AEロック中は、自動的にスポット測光となりますので、スポット測光範囲円内だけで露出を測ります。ペンタックスファンクションで分割測光にすることもできます。☞ p.116を参照してください。この場合、[＊]点滅は、点灯になります。
- シャッターボタン半押しでピントが合うと同時にAEロックをするようにペンタックスファンクションで設定できます。(☞ p.116)

スポット測光範囲円

分割測光について

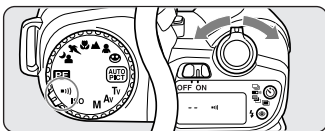
撮るものの大きさや位置、背景などの明るさや逆光を、ファインダー内を6分割して測ります。逆光などで人物が暗くなるときでも、どの部分にどんな明るさのものがあるのかをカメラが判断し、人物が暗くならないように自動的に補正します。

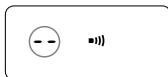
メモ

- A･F･FA以外のレンズでは、中央重点測光になります。

電子音の切り替えについて

ピントが合ったときや、セルフタイマー、リモコン、AEロック時の電子音の有無を変更することができます。

1 モードダイヤルを[•)))]に合わせる

2 セレクトレバーを回すと電子音の切り替えができる

3 on [•)))]を表示させると「鳴る」に、- - [•)))]を表示させると「鳴らない」になる

メモ

モードダイヤルが[•)))]位置では、シャッターがきれません。

ピント調整について

ピント調整に関する設定として、オートフォーカスでの撮影方法、マニュアルフォーカスでの撮影方法について説明します。

- **オートフォーカス撮影**…ピントを自動で調整します。シャッターボタンを半押ししてピントが合うとその位置で固定されます。
- **マニュアルフォーカス撮影**…ピント調整を手動で行います。☞ p.78

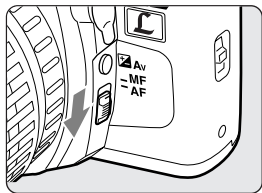
オートフォーカスで写真を撮る

メモ

以下の場合は、オートフォーカスや合焦表示●によるピント調整ができません。ファインダーのマット面を利用し、手動でピントを調整してください(☞ p.79)。

- 合焦表示●が点滅する場合（オートフォーカスが苦手な被写体）☞ p.76
- 開放F値が、F5.6より暗いレンズを使用している場合
- ベローズ100mmF4、シフト28mmF3.5(シフト状態)、レフレックスタイプのレンズを使用している場合
- 旧タイプのねじ込み取り付け式レンズを別売りの「マウントアダプターK」で取り付けて使用している場合

1 オートフォーカス(AF)を設定する

①フォーカスモードレバーを[AF]位置に合わせます。

2 撮影する

①ファインダーで写したいものを確認して、シャッターボタンを半押しの状態にします。

自動でピントを調整し、ピントが合うと合焦マーク⬣が点灯して「ピピッ」と電子音が鳴ります。

合焦マーク

※ ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

メモ

⬣が点灯している間は、ピントが固定(フォーカスロック)されます。別のものにピントを合わせるときは、いったんシャッターボタンから指を離してください。

②ファインダー内で合焦マーク⬣が点灯していることを確認し、シャッターボタンを押しきります。

メモ

合焦マーク⬣が点滅しているときは、ピントが合っていません。ピントが合わない限りシャッターはきれません。写したいものに近づきすぎている場合は、離れた位置から撮影してください。オートフォーカスの苦手な被写体の場合は、手動でピントを調整してください(☞ p.78)。

メモ オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカス機構は、きわめて精度の高いものですが、被写体の明るさ･コントラスト･形状･大きさなどによって、以下のようにピントが合わない場合があります。
ピントが合わないときには、被写体とほぼ等しい距離のものにいったんピントを固定(フォーカスロック)したり(☞ p.80)、手動でファインダーのマット面を利用してピントを調整してください(☞ p.79)。

- ピントを合わせたいところに、白い壁などの極端にコントラスト(明暗差)の低い被写体がある場合
- ピントを合わせたいところに、光を反射しにくい被写体がある場合

- ピントを合わせたいところに、細かな模様の被写体がある場合
- ファインダーの複数の測距点に、遠近のものが同時に存在する場合
- 非常に速い速度で移動している被写体
- 反射の強い光、強い逆光(周囲が特に明るい被写体)

メモ アクセサリーやレンズ使用時の注意

■ アクセサリーの使用について

以下のアクセサリーを使用するときには、手動でファインダーのマット面を利用してピントを調整してください(☞ p.79)。

- 特殊なフィルターや「マジックイメージアタッチメント」「ステレオアダプター」などを使用している場合
- 「接写リング」「オートベローズ」を使った拡大接写撮影の場合

※オートフォーカスで、一般の偏光フィルターを使用するとオートフォーカスの精度が低下します。偏光フィルターを使用するときは、円偏光フィルターのご使用をお勧めします。

■ SMCペンタックスFソフト85mmF2.8の使用について

約1.5mより近距離でレンズの絞り値をＦ5.6～Ｆ32の範囲で使用すると、オートフォーカスが誤合焦することがあります。絞り値をＦ5.6～Ｆ32の範囲で使用するときは、いったん絞り値をＦ4.5に合わせてピントを調整後、フォーカスロック(☞ p.80)して希望の絞り値に合わせ直してから撮影してください。

メモ スナップインフォーカス撮影について

別売りのケーブルスイッチCS-205とF·FA以外のレンズ(オートフォーカス用でないレンズ)を組み合わせると、写したいものが構図内に来たときに、自動的にシャッターがきれるような撮影をできます。

①F·FA以外のレンズをセットします。
②フォーカスモードレバーを[AF]位置に合わせます。
③写したいものが通りそうな位置に、ピントをセットしておきます。
④別売りのケーブルスイッチCS-205を使用して、シャッターボタンを押しきった状態にします。
写したいものがピントを合わせた位置に来ると、自動的に撮影されます。

手動でピントを調整する

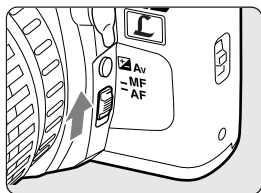
手動でピントを調整します。ピントを調整する方法は、ファインダー内の合焦マーク● を利用する方法と、ファインダー内のマット面を利用する方法があります。

◆ファインダー内の合焦マーク● を利用する

メモ

合焦マーク●を利用してピントを調整できるのは、開放F値がF5.6以上の明るいレンズ(F1.2〜F5.6)が目安です。それ以外のレンズは、マット面を利用してピントを調整してください。

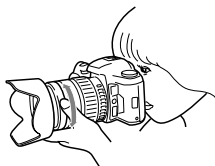
1 マニュアルフォーカス(MF)を設定する

①フォーカスモードレバーを[MF]位置に合わせます。

2 ピントを調整する

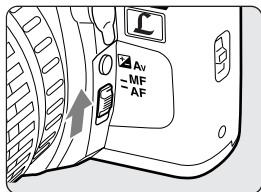
①ファインダー内で写したいものを確認して、シャッターボタンを半押しの状態にします。

②レンズの距離リングを左右に回して、ピントを調整します。

ピントが合うとファインダー内の合焦マーク● が点灯して「ピピッ」と電子音が鳴ります。

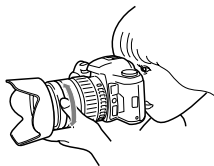
③ファインダー内で合焦マーク● が点灯していることを確認し、シャッターボタンを押しきります。

◆ファインダー内のマット面を利用する

1 マニュアルフォーカス(MF)を設定する

①フォーカスモードレバーを[MF]位置に合わせます。

2 ピントを調整する

①ファインダー内で写したいものを確認し、レンズの距離リングを左右に回して、ピントを調整します。

ファインダー内の映像が最もはっきり見えるように調整します。

②ファインダー内の映像が最もはっきり見えるのを確認し、シャッターボタンを押しきります。

スポットAFについて

ある特定の狭い範囲だけにピントを合わせたいときにお使いください。

1 スポットAFに設定する

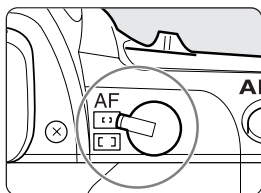
①AFエリア切り替えレバーを上側に動かし[﹝﹞]位置に合わせます。シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

②図のスポットAFフレーム[﹝﹞]の内側にだけピントが合います。

スポットAFフレーム

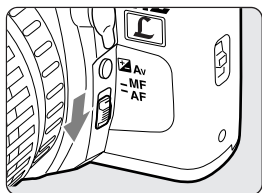
※ ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

メモ

- ピントを合わせたい物が画面中央にない場合には、フォーカスロックをご利用ください（☞ p.80）。
- 通常の撮影では、ワイドAFでの使用をお勧めします。

フォーカスロックで写真を撮る

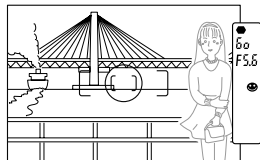
オートフォーカスでピントを調整するときに、ピントを合わせたいものがAFフレームの範囲外にあるときは、写したいものにピントを合わせることができません。そんなときは、いったんAFフレームの範囲内で、写したいものにピントを合わせて固定し(フォーカスロック)、写真の構図を変えて撮影することができます。

1 オートフォーカスモードを設定する

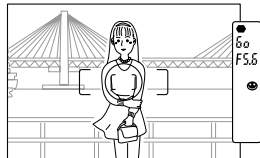
①フォーカスモードレバーを[AF]位置に合わせます。

2 フォーカスロックで撮影する

①撮りたい写真の構図をファインダーで確認し、ピントを合わせたいものが、AFフレームにかかっていない場合に、フォーカスロックで撮影します。

右の図では、人物にピントが合わずに背景にピントが合ってしまいます。

AFフレームが人物にかかっていないとピントが合わない

※ ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

②ピントを合わせたい被写体をファインダーの中心にして、シャッターボタンを半押しの状態にします。

ピントが合うとファインダー内の合焦マーク● が点灯して「ピピッ」と電子音が鳴ります。

AFフレームが人物にかかるようにして、シャッターボタンを半押しの状態にします。

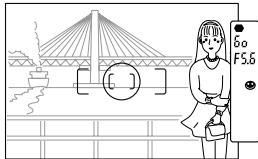
※ ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

メモ

- 合焦マーク●が点灯している間は、ピントが固定(フォーカスロック)されます。
- フォーカスロックの状態で、ズームリングを回すとピントがずれることがあります。

③シャッターボタンを半押しにしたままで、撮りたい写真の構図に戻します。

④ファインダー内の合焦マーク●が点灯していることを確認し、シャッターボタンを押しきります。

人物にピントが合います

※ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

被写界深度について

写したいもののある部分にピントを合わせると、その前後のものにもピントが合う範囲があります。このピントが合う範囲を被写界深度といいます。
ここでは、被写界深度をファインダーで確認する方法や、ピント位置と絞りの関係について説明します。

被写界深度を確認する－プレビュー

撮影するときに、ピントの合っている範囲(被写界深度)を、ファインダー内で確認できます。

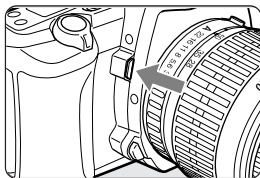
1 撮るものにピントを合わせる

①撮るものにピントを合わせます。

※ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

2 プレビューで被写界深度を確認する

①ファインダーを覗きながら、電子プレビューボタンを押します。

現在ピントの合っている範囲が、ファインダー内で確認できます。

メモ

- プレビューでの被写界深度の確認は、プログラム自動露出や絞り優先自動露出などすべての露出モードで確認できます。
- ファインダーで確認したピントの範囲と実際の写真でのピントの範囲は、必ずしも一致しません。

メモ　絞りとピントの合う範囲について

- 被写界深度(ピントの合う範囲)は、絞りを絞り込むほど深く(広い範囲にピントが合う)なります。
- その他に、広角レンズほど、また写したいものが遠くなるほど被写界深度は深くなります。ズームレンズには、機構上被写界深度の目盛りは付いていません。

絞りとシャッター速度の効果について

写したいもの(被写体)の適正露出は、シャッター速度と絞り値の組み合わせで決ります。ただし、被写体の適正露出を決めるときのシャッター速度と絞り値の組み合わせはいくつもあり、この組み合わせを選ぶことで、写真の効果を変えることができます。

◆シャッター速度の効果

シャッター速度は、光がフィルムにあたる時間を長くしたり、短くしてフィルムにあたる光の量を調整しています。

●シャッター速度を遅くする

- シャッターの開いている時間が長くなるため、写したいものが動いていれば、写したいものがぶれてしまいます。
- 川や滝、波などをシャッター速度を低速にして撮ることで、動感のある写真になります。

低速シャッター

●シャッター速度を速くする

- 動きのあるものでも動きを止めて写すことができます。
- 写したいものが動いてなくても、シャッターをきるときにカメラが動いてしまうカメラぶれを防ぐことができます。

高速シャッター

◆絞りの効果

絞りは、光がレンズを通るときの光束（光の太さ）を広くしたり、狭めたりしてフィルムにあたる光の量を調整します。

●絞りを開いて光束を広くする

- ピントを合わせたものに対して、その前後のもののボケが大きくなります。例えば、風景の中で人物を撮影すると、ピントを合わせた人物の前後にある風景のぼけを大きくし、人物だけが浮き上がる効果があります。

開放絞り側

●絞りを絞って光束を狭くする

- ピントの合う範囲が前後に広がります。例えば、風景の中で人物を撮影すると、ピントを合わせた人物の前後にある風景までピントを合わせることができます。

小絞り側

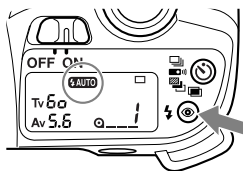
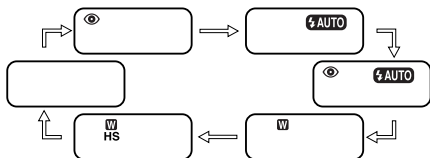
STEP UP
ステップアップ

ストロボを使用して撮影する

内蔵ストロボの使用について

内蔵ストロボを使用するときのストロボ発光モードの設定と、内蔵ストロボを使用するときに知っておきたい事項について説明します。

発光モードを設定する

ストロボモードボタンを押して選択します。

発光モードは以下のように表示されます。

自動発光AUTOは、オートピクチャーとピクチャーモードでのみ選択可能です。

メモ 発光モードの表示について

表示される発光モードにより、内蔵ストロボは次のように発光します。

表示されるマーク	発光モード	ストロボの発光状態
⚡AUTO	オートポップアップ	ストロボ発光が必要なときだけ自動で上がります。*2また、必要なときだけ光ります。
⚡AUTO+◉	オートポップアップ+赤目軽減	オートポップアップモードでストロボが発光するときに赤目軽減機能が働きます。*1、*2
W	ワイヤレス	専用のストロボでワイヤレス機能を使用するときに設定します。☞ p.102
W+HS	ワイヤレス+ハイスピードシンクロ	専用のストロボを使用して、ハイスピードシンクロ発光するときに設定します。☞ p.101
	オートポップアップ/自動発光なし	自動でストロボは上がりません。ストロボが上がっていれば常に発光します。
◉	オートポップアップ/自動発光なし+赤目軽減	オートポップアップ/自動発光なしで、赤目軽減機能が働きます。*1

＊1：赤目軽減機能とAF360FGZなどのストロボのスレーブ機能やワイヤレス機能を組み合わせると、1度目のプリ発光で外付けストロボが発光します。スレーブ機能を使用するときは、赤目軽減機能は使用しないでください。

＊2：オートポップアップモードは、オートピクチャーとピクチャーモードでのみ設定できます。

- AEロック中はオートポップアップは働きません。
- 外付けストロボでも同様に、ストロボ自動発光がご使用いただけます。
- 外付けストロボを取り付けていると内蔵ストロボは自動的に上がらなくなります。
- 外付けストロボを取り付けた状態で、ストロボの電源を切っているか充電中の場合、表示パネルに[AUTO]が表示されていても内蔵ストロボは自動的に上がりません。

メモ　**赤目を軽減するには**

一般に「赤目現象」といわれ、暗い中で人物のストロボ撮影を行ったときに、ストロボの光が目の網膜に反射して目が赤く写る現象です。赤目を完全に防ぐことはできませんが、以下の方法で赤目を軽減できます。

- できるだけ周りを明るくして撮影する
- ズームレンズを使用するときは、広角側にして近距離で撮影する
- 外付けストロボを使用するときは、ストロボをできるだけカメラから離す

内蔵ストロボについて、もっと知りたい方へ

内蔵ストロボを使用するときに、絞り値からストロボ撮影の可能距離を計算する方法やF･FAレンズとの適合性などについて説明します。

◆絞り値からストロボ撮影可能距離を計算する

撮影時に選択されている絞り値を確認し、以下の方法で撮影距離を計算してください。

ただし、0.7m以下の距離では使用できません。0.7mより近距離で撮影すると、ストロボ光のムラやケラレ、露出オーバーの原因になります。

遠距離の目安　　ガイドナンバー÷使用絞り値
近距離の目安　　遠距離側目安÷5*1

＊1：割り算に使用した数値「5」は、内蔵ストロボを単独で使用した場合にのみ適用されます。

ガイドナンバーは、使用するフィルム感度(ISO)によりおよそ以下のようになります。

フィルム感度(ISO)	ガイドナンバー
ISO25	5.5
ISO50	7.8
ISO100	11
ISO200	15.6
ISO400	22

例：ISO100のフィルムを使用し、絞り値F2.8でストロボ撮影するときは、以下のように計算します。

遠距離の目安　ガイドナンバー[11]÷F2.8＝約3.9m

近距離の目安　3.9÷5＝約0.8

したがって、約0.8m～3.9mの範囲でストロボが使用できます。

メモ **撮影距離から絞り値を計算するには**

撮影距離から絞り値を計算するときは、以下のように計算します。

ガイドナンバー÷撮影距離＝絞り値

計算で出た数値が「3」のように、レンズの絞り値にない値になったときは、一般的に数字の小さいほう[2.8]に設定します。

◆内蔵ストロボ使用時のF・FAレンズ適合性について

内蔵ストロボを使用して撮影するときのF･FAレンズの適合性について説明します。

メモ

ストロボ撮影に不適切なF･FAレンズを使用した場合、充電完了後にシャッターボタンを半押しにすると、表示パネルやファインダー内の⚡が点滅して警告します(☞p.34)。警告が出た状態で撮影すると、画面の四隅が暗くなるケラレが出たり、画面下部に半円のケラレが出ますのでご注意ください。

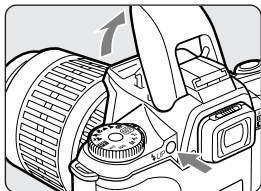
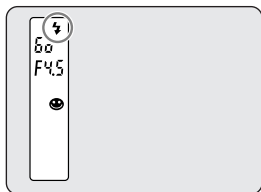
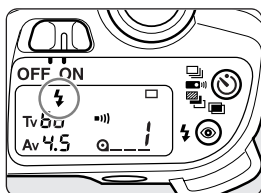
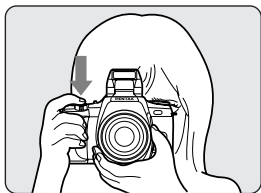
内蔵ストロボ使用時のF･FAレンズ適合表

○:使用可　△:記載条件でケラレが発生する場合あり　×:ケラレが発生する

レンズ名	適　合
Fズーム17〜28mmF3.5〜4.5	×
FAズーム20〜35mmF4AL	△ 焦点距離28mm未満でケラレが発生する場合あり
FA24〜90mmF3.5〜4.5AL(IF)	△ 焦点距離35mm未満と35mmで撮影距離が1m以下でケラレが発生する場合あり
FAズーム28〜70mmF4AL	○
FA★ズーム28〜70mmF2.8AL	×
FAズーム28〜80mmF3.5〜5.6	△ 焦点距離28〜35mmで撮影距離3m以下、35mmで撮影距離1m以下でケラレが発生する場合あり
FA28〜90mmF3.5〜5.6	○ 焦点距離が28mm側で表示パネルとファインダー内に ⚡ マーク点滅による警告が出ますが、ケラレは発生しません。
FA28〜105mmF3.2〜4.5AL(IF)	○
FAズーム28〜105mmF4〜5.6(IF)	△ 焦点距離40mm以下でケラレが発生する場合あり
FAズーム28〜200mmF3.8〜5.6AL(IF)	△ 焦点距離70mm以下でケラレが発生する場合あり
F･FAズーム35〜80mmF4〜5.6	○
FAズーム70〜200mmF4〜5.6	○
FA★ズーム80〜200mmF2.8ED(IF)	△ 焦点距離90mm以下でケラレが発生する場合あり
FAズーム80〜320mmF4.5〜5.6	○
F･FAズーム80〜200mmF4.7〜5.6	○

レンズ名	適　合
FA100～300mmF4.7～5.8	○
Fズーム100～300mmF4.5～5.6	○
FAズーム100～300mmF4.5～5.6	○
FA★ズーム250～600mmF5.6ED(IF)	×
FA20mmF2.8	×
FA★24mmF2AL(IF)	×
FA28mmF2.8AL	○
FA31mmF1.8AL Limited	○
FA35mmF2AL	○
FA43mmF1.9 Limited	○
FA50mmF1.4	○
FA50mmF1.7	○
FA77mmF1.8 Limited	○
FA★85mmF1.4(IF)	○
FA135mmF2.8(IF)	○
FA★200mmF2.8ED(IF)	○
FA★300mmF2.8ED(IF)	×
FA★300mmF4.5ED(IF)	○
FA★400mmF5.6ED(IF)	○
FA★600mmF4ED(IF)	×
FAマクロ50mmF2.8	○
FAマクロ100mmF2.8	○
FAマクロ100mmF3.5	○
FA★マクロ200mmF4ED(IF)	○
FAソフト28mmF2.8	○
FAソフト85mmF2.8	○

手動でストロボを上げる

1 **強制発光ボタンを押して、ストロボを上げます。表示パネルの⚡AUTOが消えます。**

2 **充電が終わると、表示パネルとファインダー内に⚡が表示されます。**

3 **シャッターボタンを押し込んでストロボ撮影をします。**

4 内蔵ストロボは図の部分を押して収納してください。

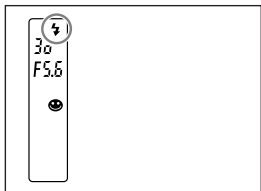
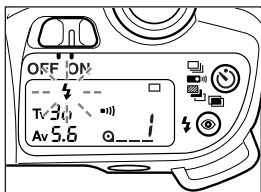
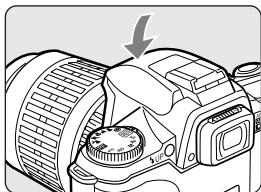
メモ

- 明るさに関係なくストロボは常に発光します。
- ストロボ充電中はシャッターは切れません。
- ストロボを連続して使うと、電池が多少温かくなることがありますが、異常ではありません。
- 外付けストロボを取り付けた状態で、強制発光ボタンは押さないでください。外付けストロボに接触します。同時に使用する場合の接続方法については、 p.104を参照してください。
- レンズフードは、ストロボの光を遮りますので使わないでください。
- ストロボが上がっている状態で、強制発光ボタン[UP]を押すと、常にストロボが光る強制発光になります。

参考 ストロボお勧めマークについて

暗い場所や逆光のときは、表示パネルとファインダー内のが点滅し、ストロボの使用をお勧めします。また、手ぶれの可能性があるときは、ファインダー内の表示がオレンジ色に変わります。

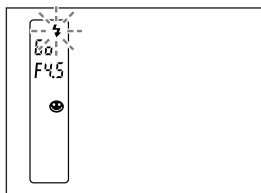
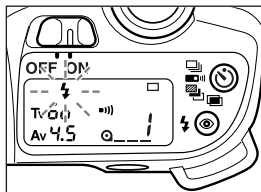
メモ

- 露出モードがシャッター優先自動露出・マニュアル露出では逆光の場合にのみが点滅します。
- 充電完了と同時には点灯になります。

STEP UP ストロボを使用して撮影する

参考 不適切レンズの警告表示

ストロボ撮影に不適切なレンズを使用すると、充電完了時表示パネルとファインダー内の⚡が点滅し警告します。

メモ

- 内蔵ストロボの適·不適レンズについては、☞p.92を参照してください。
- 警告が出た状態で撮影すると、画面の四隅が暗くなるケラレが出たり、画面下部に半円形のケラレが出ますのでご注意ください。
- F·FAレンズ以外では警告表示は出ません。
- 警告が出る条件でも、オートポップアップ機能は働きますのでご注意ください。

外付けストロボの使用について

カメラの内蔵ストロボで光量が不足するときは、別売りの外付けストロボを利用してください。TTLオートで撮影する方法やAF360FGZを使用してワイヤレス機能で撮影したり、ハイスピードシンクロで撮影する方法について説明します。
ただし、ご使用の外付けストロボにより使用できる機能が異なりますので、以下の説明を参照の上ご使用ください。

ストロボの機能一覧

内蔵ストロボと別売りの外付けストロボで使用可能な機能について説明します。ご使用のストロボの機種を確認の上ご使用ください。

カメラの機能	A	B	C	D	E	F
赤目軽減機能が使用できる	○	○	○	×	○*1	×
ストロボ自動発光ができる	○	○	○	○	○	○
ストロボ充電完了で、ストロボの同調速度に自動的に切り替わる	○	○	○	○	○	○
オートピクチャー、ピクチャー、シャッター優先自動露出では絞りが自動セットされる	○	○	○	○	○*2	○*2
ファインダー内でオートチェックできる	×	○	○	○	×	×
TTLオートストロボ撮影ができる ☞ p.99	○	○*4	○	○	○*3	×
P-TTLオートストロボ撮影ができる ☞ p.98	×	○*5	×	×	×	×
低速シンクロ撮影ができる ☞ p.107	○	○	○	○	○	○
AF補助光が使用できる	○	○	○	○	×	×
後幕シンクロ撮影ができる*6	○*7	○	○	○	×	×
光量比制御モードで撮影ができる*8	×	○	○	×	×	×
スレーブ機能が働く	×	○	○	×	×	×
マルチストロボが働く	×	×	○*9	×	×	×
ハイスピードシンクロで撮影ができる	×	○	×	×	×	×
ワイヤレスで撮影ができる	×	○	×	×	×	×

STEP UP　ストロボを使用して撮影する

A：内蔵ストロボ
B：AF360FGZ
C：AF500FTZ、AF330FTZ
D：AF400FTZ、AF240FT
E：AF400T、AF280T、AF200T、AF080C、AF140C、AF200SA
F：AF200S、AF160、AF140

＊1：AF280T、AF400Tで、ファインダーオートチェックをOFFにし、TTLオートに設定した場合のみ使用できます。
＊2：**E**(AF200SAを除く)のストロボで、MS(マニュアルシンクロ)、M(マニュアル)で使用するときや**F**のストロボを使用するときは、絞り優先自動露出またはマニュアル露出、バルブで撮影してください。ピクチャーモードやシャッター優先自動露出では、絞り値が変化しますので使用できません。
＊3：AF200SAでは、TTLオートストロボ撮影できません。
＊4：A･F･FAレンズ使用時はP-TTL
＊5：A･F･FAレンズ使用時のみ
＊6：シャッター速度は、1/60秒以下になります。
＊7：**B**または**C**、**D**のストロボと組み合わせて後幕シンクロが可能です。
＊8：シャッター速度は、1/60秒以下になります。
＊9：AF330FTZは不可。

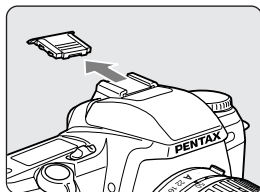
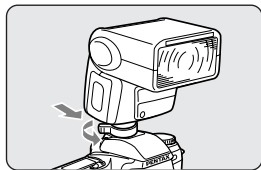
P-TTLオートで撮影する

P-TTLオートでは、撮影直前にストロボをプリ発光させ、6分割で測光するため、より正確な制御が可能です。ワイヤレスでもP-TTLオートが可能です。

P-TTLオートはAF360FGZとの組み合わせでのみ可能です。

1 ストロボをセットする

①カメラのホットシューカバーFKを取り外します。

取り外したホットシューカバーは、ストラップのポケットに入れておくと便利です(☞p.14)。

②ストロボを取り付けます。

2 P-TTLオートに設定する

①ストロボの電源スイッチを入れます。

②ストロボの発光モードをP-TTLオートに設定します。

メモ

- AF360FGZ以外のストロボではTTLオートになります。
- 操作方法については、外付けストロボに付属の使用説明書を参照してください。

3 撮影する

①ストロボの充電完了を確認します。

②ピントを合わせて撮影します。

メモ

- ストロボの充電が完了すると、カメラのシャッターボタンを半押しにしたときに、ファインダー内に⚡が点灯します。
- 外付けストロボでも自動発光は働きます。写すものが明るいとストロボは発光しませんので、日中シンクロ撮影ではご注意ください。

ハイスピードシンクロモードで撮影する

AF360FGZを使用することで、1/125秒より速いシャッター速度でも、ストロボを発光して撮影することができます。ハイスピードシンクロは、ストロボをカメラに取り付けても、ワイヤレスでも使用できます。

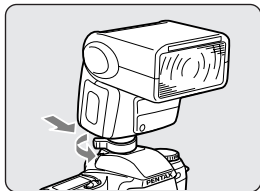
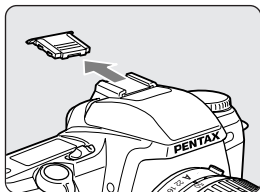
◆ストロボをカメラに取り付けて撮影する

1 ストロボをセットする

①カメラのホットシューカバーFKを取り外します。

取り外したホットシューカバーは、ストラップのポケットに入れておくと便利です(☞ p.14)。

②ストロボを取り付けます。

③露出モードをオートピクチャー、ピクチャーモード以外にします。

2 ストロボ側をHS(ハイスピードシンクロ)に設定する

①ストロボのシンクロモードをHS(ハイスピードシンクロ)に設定します。

操作方法については、外付けストロボに付属の使用説明書を参照してください。

3 ハイスピードシンクロで撮影する

①ストロボの充電完了を確認します。

②ピントを合わせて撮影します。

メモ

- ストロボの充電が完了すると、カメラのシャッターボタンを半押しにしたときに、ファインダー内に⚡が点灯します。
- シャッター速度が1/125秒を超えた場合のみハイスピードシンクロとなります。
- 露出モードがオートピクチャー、ピクチャーモードではハイスピードシンクロはできません。

◆ストロボをワイヤレスで撮影する

1 ストロボをカメラから離してセットする

①ストロボを発光させたい位置に固定します。

②ストロボの電源スイッチを「WIRELESS」にします。

③ワイヤレスモードをS(スレーブ)にします。

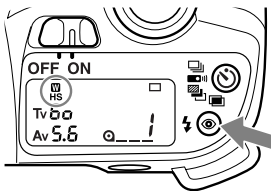
メモ

• 操作方法については、外付けストロボに付属の使用説明書を参照してください。

• ワイヤレス制御については102ページを参照してください。

2 カメラ側をHS(ハイスピードシンクロ)に設定する

①強制発光ボタンを押して、内蔵ストロボを使用できる状態にします。

②ストロボモードボタンを押し、WHSを表示します。

③内蔵ストロボと外付けストロボの充電完了を確認します。

④ピントを合わせて撮影します。

メモ

• 内蔵ストロボの充電が完了すると、カメラのシャッターボタンを半押しにしたときに、ファインダー内に⚡が点灯します。

• シャッター速度が1/125秒を超えた場合のみハイスピードシンクロとなります。

ワイヤレスモードで撮影する

AF360FGZを使用することで、カメラとストロボをコードで接続しないで、ストロボ撮影することができます。ハイスピードシンクロの機能は、ワイヤレスでも使用できます。

1 ストロボをカメラから離してセットする

①ストロボを発光させたい位置に固定します。

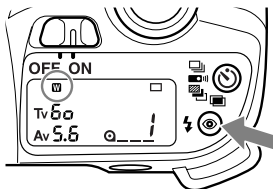
②ストロボの電源スイッチを「WIRELESS」にします。

③ワイヤレスモードをS(スレーブ)にします。

操作方法については、外付けストロボに付属の使用説明書を参照してください。

2 カメラ側をワイヤレスに設定する

①強制発光ボタンを押して、内蔵ストロボを使用できる状態にします。

②ストロボモードボタンを押し、Ⓦを表示します。

③内蔵ストロボと外付けストロボの充電完了を確認し、撮影します。

メモ

- 内蔵ストロボの充電が完了すると、カメラのシャッターボタンを半押しにしたときに、ファインダー内に⚡が点灯します。
- 内蔵ストロボの代わりに、AF360FGZをカメラに直接取り付けても、ワイヤレスモードが可能です。

ワイヤレスストロボ制御について(P-TTL撮影)

AF360FGZをワイヤレスで使用するときには、ストロボが発光されるまでに内蔵ストロボとAF360FGZ間で以下のような情報伝達が行われています。

① シャッターボタンを押しきる

② 内蔵ストロボが小光量発光(カメラ側の発光モードを伝達)

③ 外付けストロボが小光量発光(被写体の状態を確認)

④ 内蔵ストロボが小光量発光(発光量を外付けストロボに伝達)

＊HS(ハイスピードシンクロ)が設定されている場合は、発光時間を伝達するためにこの後内蔵ストロボがもう一度小光量発光します。

⑤ 外付けストロボが本発光

ペンタックスファンクションのNo.11で、内蔵ストロボを外付けストロボへの情報伝達用としてだけ使うか、露出に影響を与える発光もするかを選択できます。(☞ p.118)

ワイヤレスストロボ制御のチャンネル設定について

ワイヤレス制御を行う場合、カメラとAF360FGZのチャンネル(例:CH1)を合わせる必要があります。合わせ方は、AF360FGZをカメラに取り付け、カメラの電源を入れた後、シャッターボタンを半押しすると、AF360FGZのチャンネルがカメラ側に設定されます。WあるいはWHSを設定した時に約10秒間、現在のチャンネルが表示されます。

内蔵ストロボと同時に使用する

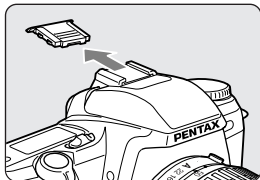
内蔵ストロボと外付けストロボを同時に使用する方法について説明します。内蔵ストロボと外付けストロボを同時に使用するには、以下の別売りアクセサリーが必要です。

- ホットシューアダプターFG
- オフカメラシューアダプターF
- 延長コードF5P

1 ストロボを取り付ける

①カメラのホットシューカバーFKを取り外します。

取り外したホットシューカバーは、ストラップのポケットに入れておくと便利です(☞ p.14)。

STEP UP ストロボを使用して撮影する

②カメラにホットシューアダプターFGを取り付けます。

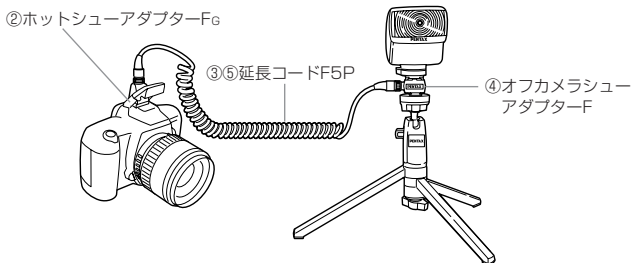
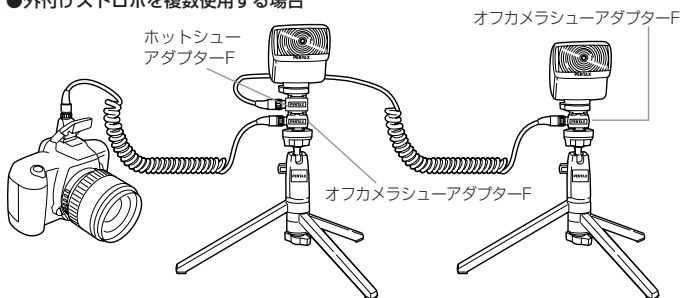
③ホットシューアダプターFGに延長コードF5Pを取り付けます。

④オフカメラシューアダプターFを三脚などで固定します。

⑤オフカメラシューアダプターFに延長コードF5Pを取り付けます。

⑥オフカメラシューアダプターFの上にストロボを取り付けます。

⑦内蔵ストロボを上げます。

AF500FTZでは、オフカメラシューアダプターFを使用しなくても、直接延長コードF5Pをつなぐことができます。

●外付けストロボを複数使用する場合

メモ 外付けストロボの多灯撮影について

2個以上のストロボを同時使用する場合の使用上の注意事項について説明します。

●「ストロボの機能一覧」（☞ p.97）を参照して以下の組み合わせで使用してください。

- 同じタイプ（**B**～**F**）どうしを組み合わせて使用してください。
- 違うタイプを使用する場合は、**C**と**D**、あるいは**E**と**F**と組み合わせて使用してください。

●内蔵ストロボは、どのタイプのストロボとも組み合わせて使用できます。

光量比制御シンクロで撮影する

内蔵ストロボや複数のストロボを組み合わせることで、ストロボの光量の違いを利用した撮影（光量比制御シンクロ撮影）ができます。

光量比制御シンクロで撮影できるストロボは、AF360FGZ、AF330FTZ、AF500FTZ、または内蔵ストロボです。

◆内蔵ストロボと外付けストロボを組み合わせる場合

1 外付けストロボの準備をします

①外付けストロボをカメラから離して設置します。

- ホットシューグリップを使用するとTTL調光が正しく働かないことがあります。
- 接続方法は104ページをご覧ください。

②ストロボのシンクロモードを光量比制御モードに設定します。

設定方法については、ストロボに付属の使用説明書を参照してください。

2 撮影する

①内蔵ストロボを上げます。

②内蔵と外付けストロボの充電完了を確認します。

③ピントを合わせて撮影します。

メモ

- 光量の比率は、内蔵ストロボが1に対して外付けストロボは2(複数の場合は合計)になります。
- 光量比制御シンクロ撮影では、シャッター速度の上限は1/60秒になります。

◆複数の外付けストロボを組み合わせる場合(内蔵ストロボなし)

1 ストロボの準備をします

①外付けストロボをカメラから離して設置します。

メモ

- ホットシューグリップを使用するとTTL調光が正しく働かないことがあります。
- 接続方法は104ページをご覧ください。

②必要なストロボのシンクロモードを光量比制御モードに設定します。

メモ

光量比制御モードに設定したストロボの光量が「2」に対して、設定していないストロボの光量は「1」で制御されます。
設定方法については、ストロボに付属の使用説明書を参照してください。

2 撮影する

①すべてのストロボの充電完了を確認します。

②ピントを合わせて撮影します。

低速シンクロで撮影する

夕景などを背景に人物を撮影するときに、低速シンクロを利用すると人物と背景をきれいに撮影することができます。低速シンクロ撮影は、62ページの夜景モードを利用する方法が最も簡単ですが、マニュアル露出、シャッター優先自動露出でも可能です。

低速シンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなります。カメラぶれを防ぐため、カメラを三脚などで固定してください。

◆マニュアル露出で撮影する

1 ストロボを準備する

①内蔵ストロボを使用するときは、強制発光ボタンを押してストロボを上げます。

外付けストロボを使用するときは、外付けストロボの電源を入れます。

2 マニュアル露出に設定する

①絞り値を設定します。

②シャッター速度を設定します。

ストロボの充電完了と適正露出を確認します。

③ピントを合わせて撮影します。

◆シャッター優先自動露出で撮影する

1 シャッター優先自動露出に設定する

2 絞り表示が点滅(連動範囲外)しないシャッター速度を選ぶ

3 ストロボを準備する

メモ

手順3は、手順1、2の後に行ってください。背景が適正露出にならないことがあります。

①内蔵ストロボを使用するときは、強制発光ボタンを押してストロボを上げます。

外付けストロボを使用するときは、外付けストロボの電源を入れます。

4 ピントを合わせて撮影する

ストロボの使用について

ストロボを使用するときの注意事項について説明します。

◆内蔵ストロボと専用ストロボの使用について

●内蔵ストロボとペンタックス専用の外付けストロボを組み合わせて同時に使用した場合、外付けストロボが後幕シンクロに設定されていると内蔵ストロボも後幕シンクロになります。

●撮影するときは、各ストロボの充電が完了してからシャッターをきってください。

◆他社製ストロボの使用について

●他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。ペンタックス専用オートストロボの使用をお勧めします。

●スタジオ用の大型ストロボでは、極性が逆になっているものがあります。このタイプでは、本カメラと組み合わせてもストロボが発光しません。詳しくは、ストロボのメーカーにご相談ください。

●大型ストロボと組み合わせて使用するときは、後幕によるケラレを防ぐため、同調速度より一段低いシャッター速度でのご使用をお勧めします。

付録

ファンクションキーの機能

ペンタックスファンクション

本機には、使用目的に合わせてカメラの各機能を設定できる11種類のペンタックスファンクション機能があります。

[F1]	オートブラケットの補正値幅の選択	☞ p.115
[F2]	オートブラケット撮影後の1コマ撮影への復帰	☞ p.115
[F3]	リモコンの作動時間の選択	☞ p.116
[F4]	リモコン撮影時のピント合わせの有無の選択	☞ p.116
[F5]	AEロック時の測光モード選択	☞ p.116
[F6]	シャッターボタン半押し時のAEロック有無の選択	☞ p.116
[F7]	動体モード時のAF方式の選択	☞ p.117
[F8]	表示パネルの照明方法の選択	☞ p.117
[F9]	電源ON時のモードダイヤルイルミネーションパターン選択	☞ p.117
[F10]	フィルム巻き戻し時のフィルム先端状態の選択	☞ p.118
[F11]	ワイヤレスモード時の内蔵ストロボの発光方式選択	☞ p.118

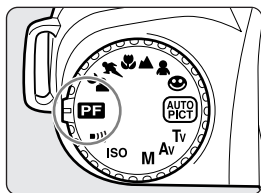
設定の基本操作について

ペンタックスファンクション機能を設定するときの基本操作について説明します。

1 ファンクションNo.(選択項目)を表示する

①モードダイヤルを回し、[PF]位置に合わせます。

②セレクトレバーで、設定するファンクションNo.(選択項目)を表示します。

表示パネルにファンクションNo.が表示されます。

例：リモコンの作動時間を設定する場合

ファンクションNo.(選択項目)

2 設定番号を表示する

①AEロックボタンを押して、設定番号(設定内容)を表示します。

表示パネルに設定番号が表示されます。

画面の設定内容は、ファンクションNo.[F3](リモコンの作動時間の設定番号を2にしています。)

設定番号(設定内容)

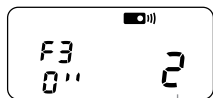
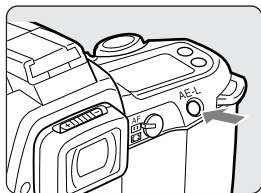
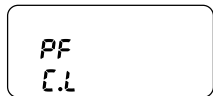
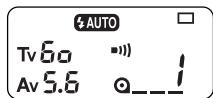
②モードダイヤルを回し、[AUTO PICT]位置に合わせます。

設定をすべて初期状態に戻すには

設定したペンタックスファンクション機能をすべて初期状態(設定番号1)に戻すには、以下の操作にしたがってください。

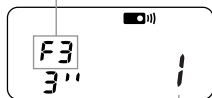
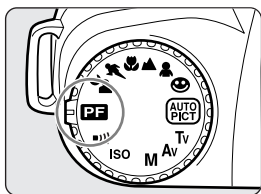
①モードダイヤルを回し、[PF]位置に合わせます。

②AEロックボタンを2秒以上押し続けます。
表示パネル[PF]と[CL]が表示され、設定したペンタックスファンクション機能をすべて初期状態に戻します。

③モードダイヤルを回し、[AUTO PICT]位置に合わせます。

ペンタックスファンクション機能を設定する

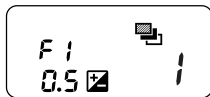
ペンタックスファンクションNo.順に、各選択項目と設定内容について説明します。
ペンタックスファンクションNo.の表示方法や設定番号の表示方法については「設定の基本操作について」を参照してください。

①モードダイヤルを[PF]位置に合わせる

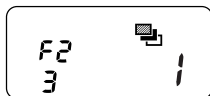
②ファンクションNo.…セレクトレバーで変更

③設定番号(設定内容)…AEロックボタンで変更

◆[F1]オートブラケットの補正値幅の選択

オートブラケット撮影時の補正値の幅を選択します。

●ファンクションNo.：[F1]
●設定番号：
[1]…1/2段階[EV]
[2]…1/3段階[EV]
[3]…2/3段階[EV]
[4]…1段階[EV]

◆[F2] オートブラケット撮影後の1コマ撮影への復帰

オートブラケット撮影後に1コマ撮影に自動的に復帰させるかどうかを選択します。

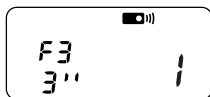
●ファンクションNo.：[F2]
●設定番号：
[1]…撮影後、1コマ撮影に戻す
[2]…撮影後もオートブラケットモードのまま

◆[F3]リモコンの作動時間の選択

リモコン撮影時に作動時間を選択します。

●ファンクションNo.:[F3]

●設定番号:

[1]…3秒後に撮影

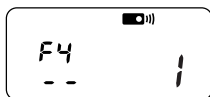
[2]…即撮影

◆[F4]リモコン撮影時のピント合わせの有無の選択

リモコン撮影時にピント合わせを行うかどうかの選択をします。

●ファンクションNo.:[F4]

●設定番号:

[1]…ピント合わせをしない

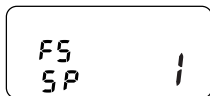
[2]…ピント合わせをする

◆[F5]AEロック時の測光モード選択

AEロック時の測光モードをスポットにするか、分割測光にするかを選択します。

●ファンクションNo.:[F5]

●設定番号:

[1]…スポット測光にする

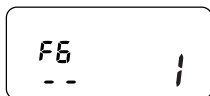
[2]…分割測光にする

◆[F6]シャッターボタン半押しでの合焦時のAEロック有無の選択

シャッターボタン半押しでの合焦時にAEロックを行うかどうかの選択をします。

●ファンクションNo.:[F6]

●設定番号:

[1]…AEロックはしない

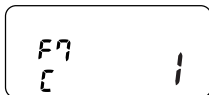
[2]…AEロックをする

◆[F7]動体モード時のAF方式の選択

オートピクチャーを除く動体モード時に、ピント合わせを連続的に行うか、ピントが合った時点でフォーカスロックするかを選択します。

●ファンクションNo.：[F7]

●設定番号：

[1]…連続的にピント合わせを行う

[2]…フォーカスロックする

◆[F8]表示パネルの照明方法の選択

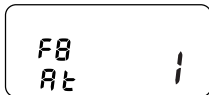
表示パネルの照明を点灯させるタイミングの選択をします。

●ファンクションNo.：[F8]

●設定番号：

[1]…被写体が暗いときに、シャッターボタンを半押しすると自動点灯

[2]…電子プレビューボタンを押したときに点灯

[3]…点灯しない

◆[F9]電源ON時のモードダイヤルイルミネーションパターン選択

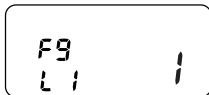
電源ON時のモードダイヤルのイルミネーションパターンを選択します。

●ファンクションNo.：[F9]

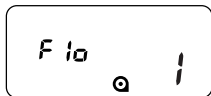
●設定番号：

[1]…パターンA（往復流れ点灯）

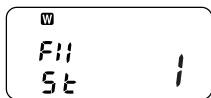
[2]…パターンB（流れ点灯）

[3]…点灯しない

◆[F10]フィルム巻き戻し時のフィルム先端状態の選択

フィルムを巻き戻したときのフィルム先端のリーダーを巻き込むかどうかを選択します。

●ファンクションNo.:[F10]
●設定番号:
[1]…完全に巻き込む
[2]…先端を残す

◆[F11]ワイヤレスモード時の内蔵ストロボの発光方式選択

ワイヤレスモード時に内蔵ストロボをマスター発光させるかコントロール発光させるかを選択します。

●ファンクションNo.:[F11]
●設定番号:
[1]…マスター発光(内蔵ストロボは本発光する)
[2]…コントロール発光(内蔵ストロボは本発光しない)

各種レンズの使用について

本機と各種レンズを組み合わせたときに、使用できる機能について説明します。

	FAレンズ[KAF·KAF2]	Fレンズ[KAF]	Aレンズ[KA]	Mレンズ[K]	Sレンズ[P]
オートフォーカス					
・レンズ単体使用	○	○	×	×	×
・AFアダプター1.7×使用	–	–	○*1	○*1	×
マニュアルフォーカス					
・FI表示の利用*2	○*3	○*3	○*3	○*3	×
・マット面の利用	○	○	○	○	○
3点測距	○	○	×	×	×
オートピクチャー、ピクチャー	○*4	○*4	○*5	×	×
絞り優先自動露出	○	○	○	○	○
シャッター優先自動露出	○*4	○*4	○	×	×
マニュアル露出	○	○	○	○	○
分割測光(6分割)	○	○	○*6	×*7	×*7
絞りA位置以外の絞り目安表示	○	○	×	×	×

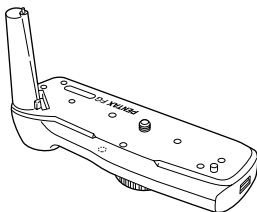
＊[　]内はマウント名です。マウント名については、レンズの使用説明書を参照してください。
＊1：レンズの開放値がF2.8より明るいレンズのみ(AFアダプターの説明書を参照)。
＊2：FIはフォーカスインジケーターの略。ファインダー内の合焦マークで、手動でピント合わせを行う。
＊3：レンズの開放F値がF5.6より明るいレンズのみ。
＊4：F·FAソフト85mmF2.8または、FAソフト28mmF2.8を除く。
＊5：標準モード固定となります。
＊6：A50mmF1.2の場合、絞りA位置以外では中央重点測光になります。
＊7：分割測光を選択しても中央重点測光になります。

付録

専用アクセサリー(別売)について

本機には、次のような各種専用アクセサリーが用意されています。アクセサリーの詳細については、各サービス窓口にお問い合わせください。

■ 単3バッテリーパックFG

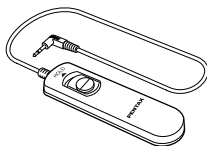
単3電池を使用するためのバッテリーパック。

撮影可能フィルム本数およびバルブ時間

●アルカリ電池を使用している場合

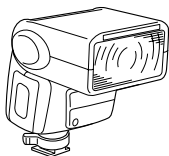
	フィルム本数(使用温度20℃)
一般撮影	約180本
ストロボ撮影(使用率50%)	約35本
ストロボ撮影(使用率100%)	約20本
バルブ露出時間	約18時間

■ ケーブルスイッチ

ケーブルスイッチCS-205

レリーズコードです。コードの長さは0.5mです。

■ ストロボ関連

オートストロボAF360FGZ

ガイドナンバー36のオートストロボ。スレーブ機能、光量比制御モードや先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。ハイスピードシンクロ機能、ワイヤレス機能が可能。

オートストロボAF500FTZ

ガイドナンバー50のAFスポットビーム内蔵オートストロボ。スレーブ機能、マルチ発光、光量比制御モードや先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。

マクロストロボAF140C

ガイドナンバー14の接写用ストロボ

オフカメラシュークリップ CL-10

AF360FGZなどをカメラから離して使用するときのセッティング用クリップ。

ホットシューアダプターFG、延長コードF5P、オフカメラシューアダプターF

外付けストロボをカメラから離して使用するときのアダプターと接続コード。

■ ファインダー/レンズ関連

マグニファイヤーFB

ファインダー中央部を拡大してみるアクセサリー。

レフコンバーターA

ファインダーを見る角度を90度間隔に変えることができできるアクセサリー。倍率は1倍と2倍に切り替えることができます。

取り付け時、カメラの裏ぶたの開閉を行うと、レフコンバーターAと接触します。裏ぶた開閉時は、レフコンバーターAを外してください。

AFアダプター1.7×

オートフォーカス用でないF2.8より明るいレンズで、オートフォーカス撮影するためのアダプター。

フィルター

スカイライト・曇天用・UV・Y2・O2・R2・円偏光があります。フィルター径は、49mm、52mm、58mm、67mm、77mmの5種類です。

- 「645レンズ用アダプターK」をボディーに着脱するときは、アダプターの固定ネジの位置によってボディに当る場合がありますので注意してください。当る場合は、固定ネジの位置を変えてから操作を行ってください。
- オートフォーカス機構の一部にハーフミラーを使用していますので、一般の偏光フィルターを使用するとオートフォーカスや露出の精度が低下します。オートフォーカスで使用するときには、円偏光フィルターのご使用をお勧めします。
  また、露出の精度も低下しますので、円偏光フィルターの使用をお勧めします。
- ホットシュー部分に付いているホットシューカバーは、MZ-LとMZ-7専用品です。他の機種のものを使用すると、ストロボのオートポップアップが働かなくなります。
- オートベロースAは、カメラを横位置でお使いください。縦位置では取り付けができません。

こんなときは？

修理を依頼される前にもう一度、次の点をお調べください。

◆ 表示パネルに何も表示されない

Check1 電源がOFFになっている

対 処 電源スイッチを[ON]位置に合わせてください(☞p.24)。

Check2 電池が入っていない／逆にセットされている

対 処 電池のセット方向を確認して正しくセットしてください(☞p.15)。

Check3 電池が完全に消耗している

対 処 新しい電池に交換してください(☞p.38)。

◆ シャッターがきれない

Check1 電源がOFFになっている

対 処 電源スイッチを[ON]位置に合わせてください(☞p.24)。

Check2 電池が入っていない／逆にセットされている

対 処 電池のセット方向を確認して正しくセットしてください(☞p.15)。

Check3 電池消耗マークが点滅している

対 処 新しい電池に交換してください(☞p.38)。

Check4 モードダイヤルが[PF]／[■))]／[ISO]位置になっている

対 処 モードダイヤルを他の位置にしてください。

Check5 内蔵ストロボが充電中

対 処 充電が完了するまで待ってください(☞p.33)。

付録

◆ ピントが合わない

Check1　ピントを合わせたいものがAFフレームの範囲に入っていない。

対処　写したいものをAFフレームに入れて撮影してください（☞p.29）。

Check2　撮影する距離が近すぎる

対処　写したいものから離れて撮影してください（☞p.76）。

Check3　オートフォーカスの苦手なもの（☞p.76）

対処　被写体とほぼ同じ距離のものにフォーカスロックしたり（☞p.80）、フォーカスモードレバーを[MF]位置に合わせ、マット面を利用して手動でピント調整をしてください（☞p.78）。

Check4　フォーカスモードレバーが[MF]位置になっている

対処　合焦マークやマット面を利用して手動でピント調整をしてください（☞p.79）。または、フォーカスモードレバーを[AF]位置にして撮影してください(☞p.75)。

◆ フィルムの撮影枚数が表示されない

Check1　表示パネルに「E」が点滅している

対処　フィルムが正しくセットされていません。フィルムを入れ直してください（☞p.20）。

Check2　フィルムが入っていない

対処　フィルムを入れてください（☞p.20）

◆ 内蔵ストロボが発光しない

Check1　内蔵ストロボが充電中

対処　充電が完了するまで待ってください（☞p.33）。

Check2　電池消耗マークが点滅している

対処　新しい電池に交換してください(☞p.38)。

Check3　**発光モード が[⚡AUTO]（オートポップアップモード）に設定されている**

対 処　オートポップアップでは、写すものが明るい場合は発光しません。強制発光モードにすることで、明るい場合でも発光します（☞ p.33）。

◆ 日付の写し込みが薄い

Check 1　**日付や時刻の写し込みが薄い**

対 処　内蔵電池（リチウム電池CR2025）を交換してください（☞ p.40）。

◆ 内蔵ストロボが自動で上がらない

Check 1　**オートピクチャー、ピクチャーモードになっていない**

対 処　露出モードをオートピクチャー、ピクチャーモードにしてください（☞ p.26）。

主な仕様

●型　式	TTLストロボ内蔵　TTL　AE･AF35mm一眼レフカメラ
●画面サイズ	24×36mm
●使用フィルム	35mmフィルム[J135パトローネ入り] 35mmDXフィルム＝ISO25～5000、 DXでないフィルムはISO6～6400
●露出モード	オートピクチャーモード、ピクチャーモード、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出、マニュアル露出、バルブ
●シャッター	電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター、 オートシャッター＝1/4000秒～30秒[無段階]、 マニュアルシャッター＝1/4000秒～30秒、バルブ、電磁レリーズ、 電源スイッチOFF位置でシャッターロック
●レンズマウント	ペンタックスバヨネットKAFマウント[レンズ情報接点付Kマウント]
●使用レンズ	KAF2、KAFマウントレンズ、KA、Kマウントレンズ[AFアダプター使用でAF可能]
●オートフォーカス機構	TTL位相差検出式3点測距（SAFOXⅣ）、 オートフォーカス作動輝度範囲Ev-1～18（ISO100 F1.4レンズ付き）、 フォーカスロック可能、フォーカスモード＝AF[動体予測可]/MF、AF補助光
●ファインダー	ペンタミラーファインダー、ナチュラルブライトマットフォーカシングスクリーン、 視野率92%、倍率0.7倍[1.4/50mm･∞]、視度＝－2～+1 m^{-1}
●ファインダー内表示	フォーカス表示[⬢] 合焦＝点灯 合焦不能＝点滅、シャッター速度表示、絞り表示、[ ]＝ストロボ情報、バーグラフ＝露出補正値 マニュアル露出時のオーバー･アンダー表示、[ ]＝標準モード、[ ]＝人物モード、[ ]＝風景モード、[ ]＝近接モード、[ ]動体モード、[　　]＝夜景モード、＊＝AEロック、手ぶれ警告＝オレンジ色表示
●LCDパネル表示	[Tv 888"]＝シャッター速度、[Av 8.8]＝絞り値、[ ]＝ストロボ情報 [ ]遅い点滅＝手ぶれ警告 [ ]速い点滅＝不適切レンズ警告、[ ]＝赤目軽減機能、[AUTO]＝オートポップアップ･ストロボ自動発光、[W]＝ワイヤレス発光、[HS]＝ハイスピードシンクロ、フィルム感度、ISO、[ ]＝パトローネ･フィルム走行･巻き取り、[ ]＝電池消耗、[ ]＝電子音、[ ]＝露出補正、[-8.8]＝露出補正値･フィルム枚数、[ ]＝セルフタイマー、[ ]＝リモコン、[ ]＝1コマ撮影、[ ]＝連続撮影、[ ]＝多重露出、[ ]＝オートブラケット、低輝度時自動照明
●プレビュー	電子式[全露出モードで使用可能]
●セルフタイマー	電子制御式、始動はシャッターボタン、12秒、電子音の有無設定可能、作動後解除可能
●オートブラケット	適正･アンダー･オーバーの3コマ連続段階露出が可能(±1/2EV)、露出補正併用可
●ミラー	クイックリターンミラー
●フィルム入れ	オートローディング、裏ぶた閉じにより1枚目まで自動巻き上げ、 裏ぶたにフィルム情報窓付
●巻き上げ･巻き戻し	内蔵モーターによる自動巻き上げ･巻き戻し式、 1コマ撮影･連続撮影[約2コマ/秒]、フィルム終了時自動巻き戻し、 フィルム走行･巻き戻し完了をLCD表示、多重露出可能、 途中巻き戻しボタンによる途中巻き戻し可能

●露出計・測光範囲	TTL開放分割測光(6分割)、測光範囲50mm F1.4 ISO100 EV0～21
●露出補正	±3段階[EV](0.5段階[EV]ごと設定可能)
●AEロック	ボタン式(タイマー式20秒間)シャッターボタン半押しで継続
●内蔵ストロボ	直列制御TTLストロボ、ガイドナンバー11[ISO 100/m]28mmレンズをカバー、 同調速度1/125秒以下、光量比制御可能、ISO連動範囲＝25～800、 オートポップアップ、赤目軽減機能
●シンクロ	ホットシュー[X接点専用ストロボ接点付き]専用ストロボ連動 ISO連動範囲＝25～800、 同調速度1/125秒以下、専用ストロボ使用でハイスピードシンクロ、ワイヤレスシンクロ、 P-TTLオート可能
●ペンタックスファンクション	11項目設定可能
●電源	3VリチウムE電池CR2　2個
●電池消耗警告	バッテリーマーク点灯[点滅時シャッターロック、ファインダー内表示は消灯]
●大きさ・質量[重さ]	135.5mm[幅]×92mm[高]×63mm[厚]×400g [ボディーのみ、電池別]
●付属品	ホットシューカバーFK、カメラストラップFK、アイカップFK、ファインダーキャップ、 リモートコントロールF

データバック仕様

●機構	クォーツ制御、液晶表示式、デジタル時計、 オートカレンダー[西暦2049年まで、閏年は自動修正]
●写し込み方法	7セグメント6桁ＬＣＤ、フィルム背面より写し込み
●表　示	データ表示窓にＬＣＤ表示、表示写し込み時－が2～3秒間点滅
●種　類	①年・月・日、 ②日・時・分、 ③-- -- --[データ写し込み無し]、 ④月・日・年、 ⑤日・月・年
●使用フィルム感度	ISO25～1600[感度自動セット]
●電源	CR2025[リチウム電池]
●発光回数	約5000回

リモコン仕様

●リモコン	赤外線リモートコントロール、リモコンシャッターボタン押して約3秒後撮影、 作動距離＝カメラ前面約5m以内
●電源	リチウム電池[CR1620]1個[サービスセンター交換]
●大きさ	22mm[幅]×53mm[長]×6.5mm[厚]
●質量[重さ]	7g[電池含む]

付録

索　引

記号 / 英数字

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

付録

お客様窓口のご案内

ペンタックス

お客様相談センター（弊社製品に関するお問い合わせ）

〒174-8639　東京都板橋区前野町2-36-9
営業時間　午前9：00〜午後6：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

0570-001313
市内通話料金でご使用いただけます。
携帯・PHSの方は下記番号をご利用ください。
☎ 03(3960)3200(代)　☎ 03(3960)0887　デジタルカメラ専用

ショールーム・写真展・修理受付

ペンタックスフォーラム　☎ 03(3348)2941(代)
〒163-0401　東京都新宿区西新宿2-1-1　新宿三井ビル1階(私書箱240号)
営業時間　午前10：30〜午後6：30（年末年始および三井ビル点検日を除き年中無休）

修理受付

ペンタックス 札幌営業所お客様窓口　☎ 011(612)3231(代)
〒060-0010　札幌市中央区北10条西18-36　ペンタックス札幌ビル2階
営業時間　午前9：00〜午後5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス 仙台営業所お客様窓口　☎ 022(371)6663(代)
〒981-3133　仙台市泉区泉中央1-7-1　千代田生命泉中央駅ビル5階
営業時間　午前9：00〜午後5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス 名古屋営業所お客様窓口　☎ 052(962)5331(代)
〒461-0001　名古屋市東区泉1-19-8　ペンタックスビル3階
営業時間　午前9：00〜午後5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス 大阪営業所お客様窓口　☎ 06(6271)7996(代)
〒542-0081　大阪市中央区南船場1-17-9　パールビル2階
営業時間　午前9：00〜午後5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス 広島営業所お客様窓口　☎ 082(234)5681(代)
〒730-0851　広島市中区榎町2-15　榎町ビュロー3階
営業時間　午前9：00〜午後5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス 福岡営業所お客様窓口　☎ 092(281)6868㈹
〒810-0802　福岡市博多区中洲中島町3-8　パールビル2階
営業時間　午前9:00〜午後5:00（土･日･祝日および弊社休業日を除く）

宅配便･郵便修理受付･修理に関するお問い合わせ

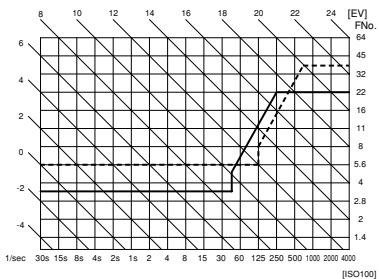
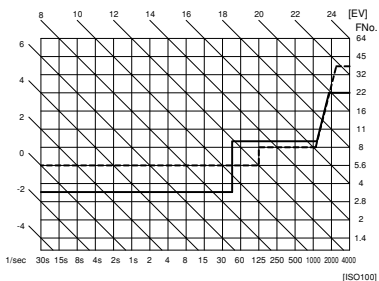
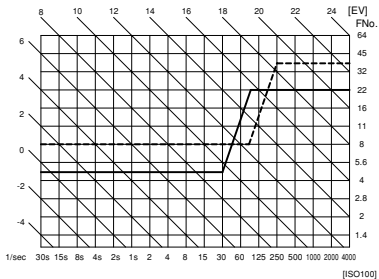
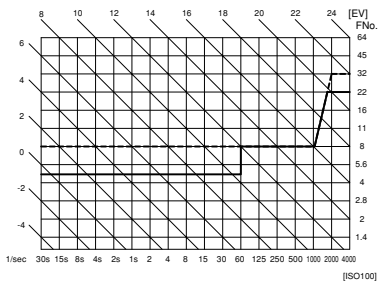
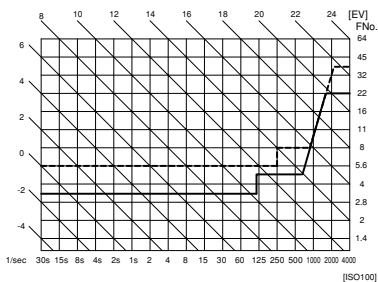
ペンタックスサービス㈱ 東日本修理センター　☎ 03(3975)4341㈹
〒175-0082　東京都板橋区高島平6-6-2　ペンタックス㈱流通センター内
営業時間　午前9:00〜午後5:00（土･日･祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックスサービス㈱ 西日本修理センター　☎ 06(6271)7996㈹
〒542-0081　大阪市中央区南船場1-17-9　パールビル2階
営業時間　午前9:00〜午後5:00（土･日･祝日および弊社休業日を除く）

ホームページアドレス　http://www.pentax.co.jp/

付録

プログラム線図

①標準モード(FA28-90mm F3.5-5.6)

②人物モード(FA28-90mm F3.5-5.6)

③風景モード(FA28-90mm F3.5-5.6)

④近接モード(FA28-90mm F3.5-5.6)

⑤動体モード(FA28-90mm F3.5-5.6)

ストロボを使用していないときの夜景モードの
プログラム線図は、標準モードと同様です。

付録

アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満1年間無料修理致しますので、お買い上げ店か使用説明書に記載されている当社お客様窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、当社のお客様窓口に直接お持ちください。修理品ご送付の場合は、化粧箱などを利用して、輸送中の衝撃に耐えるようしっかりと梱包してお送りください。不良見本のサンプルや故障内容の正確なメモを添付していただけると原因分析に役立ちます。
2. 保証期間中[ご購入後1年間]は、保証書[販売店印および購入年月日が記入されているもの]をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社お客様窓口へお届けいただく諸費用はお客様にご負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。
3. 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
   - 使用上の誤り(使用説明書記載以外の誤操作等)により生じた故障。
   - 当社の指定するサービス機関以外で行われた修理・改造・分解による故障。
   - 火災・天災・地変等による故障。
   - 保管上の不備(高温多湿の場所、防虫剤や有害薬品のある場所での保管等)や手入れの不備(本体内部に砂・ホコリ・液体かぶり等)による故障。
   - 修理ご依頼の際に保証書のご提示、添付がない場合。
   - お買い上げ販売店名や購入日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。
4. 保証期間以降の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。
5. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後7年間を目安に保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので、当社お客様窓口にお問い合わせください。
6. 海外でご使用になる場合は、国際保証書をお持ちください。国際保証書は、お持ちの保証書と交換に発行いたしますので、使用説明書記載のお客様窓口にご持参またはご送付ください。[保証期間中のみ有効]
7. 保証内容に関して、詳しくは保証書をご覧ください。

ペ ン タ ッ ク ス 株 式 会 社
〒174-8639東京都板橋区前野町2-36-9
ペンタックス販売株式会社
〒100-0014東京都千代田区永田町1-11-1

ペンタックスファミリーのご案内

ペンタックスファミリーはペンタックス愛用者の写真クラブです。年４回の会報と写真年鑑の配布、イベントへの参加や修理料金の会員割引など様々な特典があります。
お申し込み、お問い合わせは下記のペンタックスファミリー事務局まで。
〒100-0014　東京都千代田区永田町1-11-1　三宅坂ビル３階　TEL:03-3580-0336

＊仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
＊この使用説明書には再生紙を使用しています。

57401　03-200211